

もくじ

もくじ	1
はじめに	6

1章 Librettoの機能..... 9

1 各部の名称	10
2 システムインジケータ	14
3 ディスプレイ	15
4 ハードディスクドライブ	17
5 音量の調節	18
1 スピーカの音量を調節する	18
2 音楽/音声の録音レベルを調節する	20
3 システムスピーカについて	21
6 内蔵モデム	22
7 アクュポイントIIとコントロールボタン	26
8 キーボード	30
1 キーボードについて	30
2 日本語を入力するには	36

2章 インターネットを楽しもう 37

- 1 Internet Explorer の使いかた 38
 - 1 Internet Explorer 画面 38
 - 2 ホームページを検索する 40
 - 3 よく見るページを登録する (お気に入り) 41
 - 4 起動したときに表示するページを変更する 47
 - 5 ホームページを保存する 49
 - 6 ホームページの画像を保存する 52
 - 7 ホームページの画像を壁紙に設定する 54
 - 8 以前に表示したホームページを表示する 57
- 2 簡単にホームページに接続する
(東芝ネットメニュー) 59
- 3 プログラムファイルをダウンロードする 60

3章 電子メールを使おう 63

- 1 電子メールとは? 64
 - 1 電子メールとは? 64
 - 2 メールのおしくみ 65
- 2 Outlook Express の使いかた 66
 - 1 起動する 66
 - 2 オプションの設定 67
 - 3 Outlook Express 画面 72
 - 4 メールを作成する 74
 - 5 メールを送信する/受信する 78

6	メールを返信する／転送する	81
7	メールを削除する	84
8	メールを整理する	86
9	アドレス帳を使う	89
10	知っておくと便利なこと	95
11	終了する	103

4章 アプリケーションについて 105

	Libretto クイックスタートでやりたいことを探そう! ..	106
1	アプリケーションのヘルプを開く	108
2	アプリケーションの追加と削除	110
1	インストールとは?	110
2	アプリケーションを追加する	110
3	アプリケーションを削除する	112

5章 モバイルしよう 115

1	モバイルする前に	116
2	バッテリーを充電する	118
1	バッテリー充電量を確認する	120
2	バッテリーを充電する	123
3	バッテリーパックを交換する	125
3	省電力ユーティリティを使う	126

4	パスワードセキュリティ機能を使う	133
1	パスワードセキュリティ機能について	133
2	ユーザパスワードの設定	134
3	ユーザパスワードの入力	137
4	スクリーンセーバーパスワード	138
5	パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る ..	140
1	スタンバイ／休止状態	140
2	簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき	144
6	外出先でインターネットをする	146

6章 Libretto を拡張する 149

1	周辺機器を接続する前に	150
1	本製品に接続できる周辺機器	150
2	周辺機器を使う前に	152
3	取り付け／取りはずしのご注意	153
2	PC カードを接続する	154
3	USB 対応機器を接続する	157
4	マイクロホンを接続する	159
5	ヘッドホンを接続する	160
6	CRT ディスプレイを接続する	161
7	LAN へ接続する	166
8	メモリを増設する	171

7章 日常の取り扱いとお手入れ..... 177

- 1 日常の取り扱いとお手入れ..... 178

付録..... 183







- 1 本製品の仕様 184
 - 1 外形寸法図 184
 - 2 サポートしているビデオモード 185
 - 3 メモリマップ 187
 - 4 I/O ポートマップ 188
 - 5 DMA 使用リソース 189
 - 6 IRQ 使用リソース 190
- 2 各インタフェースの仕様..... 191
 - 1 RGB インタフェース (ミニ RGB ケーブル) 191
 - 2 USB インタフェース 192
 - 3 モデムインタフェース..... 192
 - 4 LAN インタフェース..... 193
- 3 技術基準適合について 194
- さくいん 207

はじめに

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心して
お使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。

本書は、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷 <small>じゅうしょう</small> を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害 <small>しょうがい</small> *1を負ったり、物的損害*2の発生が想定される内容を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下をおこさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 用語	覚えておくと役に立つ用語を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 他のマニュアルへの参照の場合…『 』 オンラインマニュアルへの参照の場合…《 》

*1 傷害しょうがいとは、治療ちりょうに入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

*2 物的損害とは、家屋・家財にかかわる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。

本製品のシステムは、Windows Me です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

..... アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME2000 を示します。

記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面は、実際に表示される画面と異なる場合があります。

Trademarks

- ・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Crusoe、Transmeta は、米国およびその他の国における Transmeta 社の商標または登録商標です。
- ・Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。

本製品の電源を入れた状態で、[スタート] → [Libretto クイックスタート] → [お読みください] → [リリース情報] をクリックするとご覧になれます。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみご利用いただけます。
- ・ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章 Libretto の機能

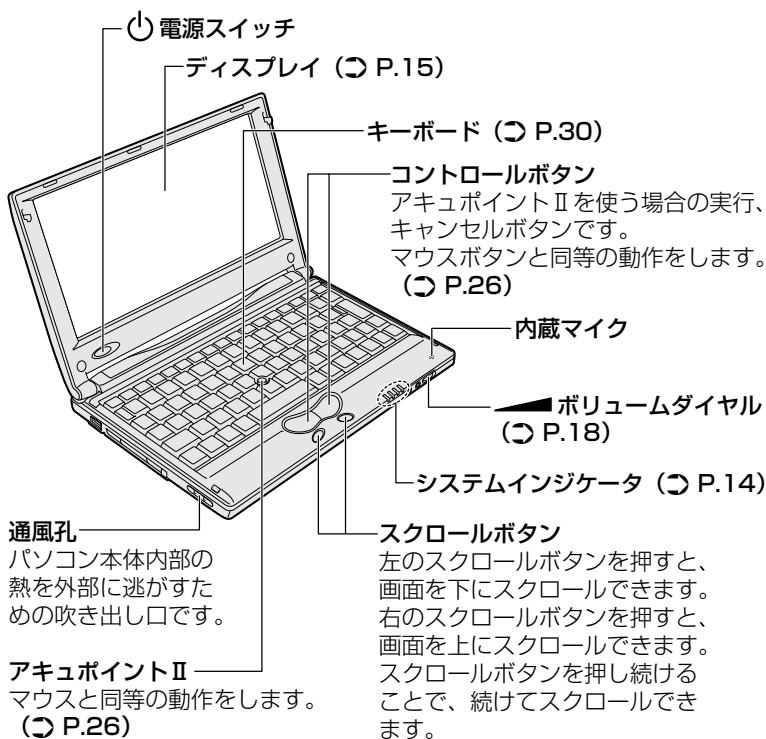
1	各部の名称	10
2	システムインジケータ	14
3	ディスプレイ	15
4	ハードディスクドライブ	17
5	音量の調節	18
6	内蔵モデム	22
7	アキュポイントIIとコントロールボタン	26
8	キーボード	30

1


各部の名称


ここでは、各部の名称と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、それぞれに関連する節で行います。

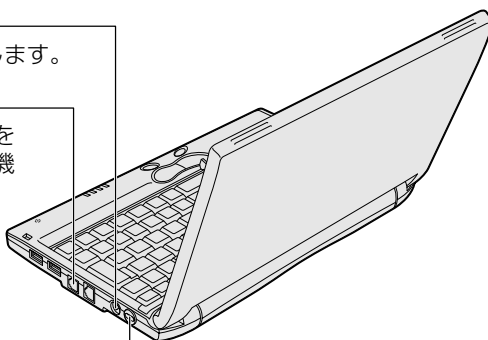
■ 前面図





■ 背面図

 **電源コネクタ**
 付属のACアダプタを接続します。

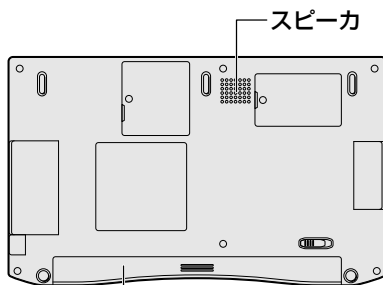
 **モジュージャック**
 モジュラーケーブルで本体を
 電話回線に接続し、モデム機
 能を使用します。



 **セキュリティロック・スロット**
 盗難防止用にチェーンなどを接続します。

 ●セキュリティロック用の機器については、本パソコンに
 対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

■ 裏面図




スピーカ

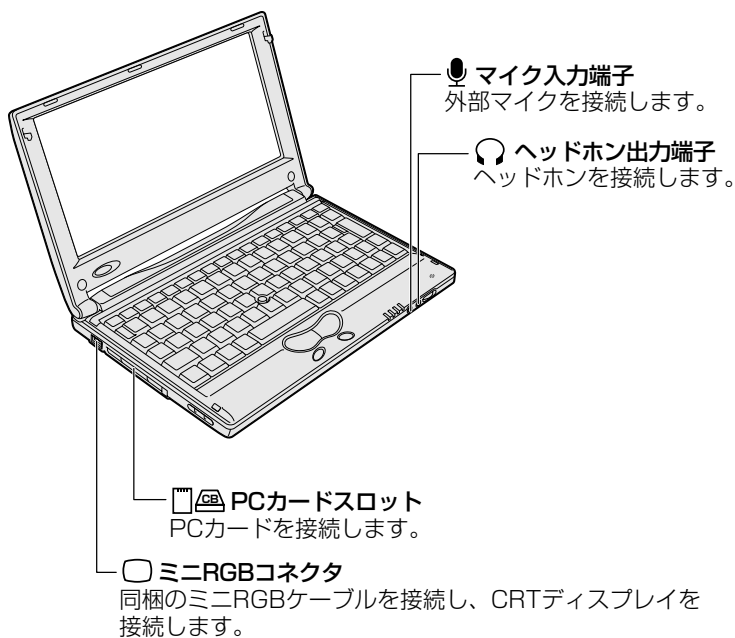
バッテリーパック
 バッテリーパックを充電すると、 배터리
 駆動 (ACアダプタを接続しない状態) で
 使用できます。
 (⇒ P.118)

周辺機器の接続場所

次の場所には、周辺機器が接続できます。

 詳細について ⇨ 「6章 Libretto を拡張する」

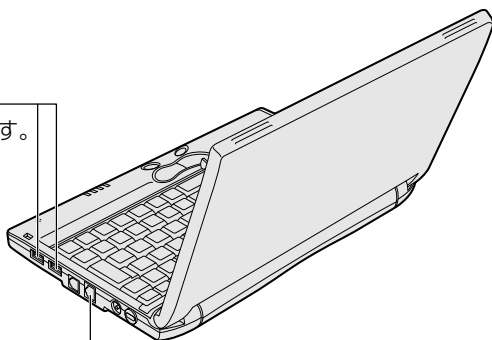
■ 前面図



■ 背面図

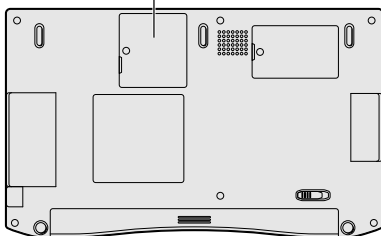
• USBコネクタ
USB対応機器を接続します。

{Ethernet} LANコネクタ
ネットワークケーブルを接続します。



■ 裏面図

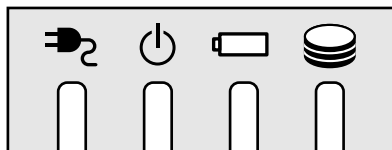
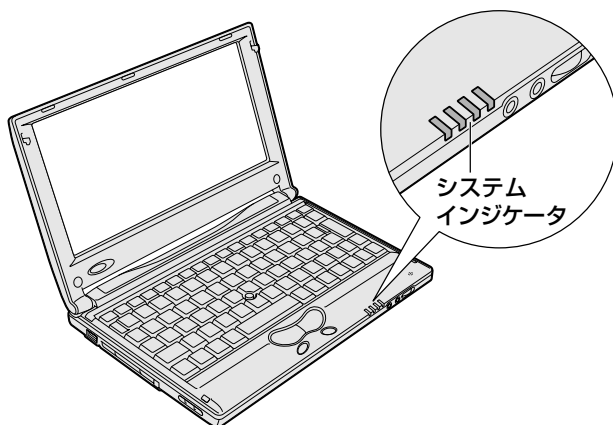
増設メモリスロット
メモリを増設します。







2

システムインジケータ

システムインジケータは、パソコン本体の動作状態を示します。インジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。






	DC IN LED	電源コードの接続 ☞『まずはこれから 電源を入れる』
	Power LED	電源の状態 ☞『まずはこれから 電源を入れる』
	Battery LED	バッテリーの状態 ☞「5章 2 バッテリーを充電する」
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている ☞「本章 4 ハードディスクドライブ」

3

ディスプレイ

ディスプレイは、パソコンの内部で行う作業を、目に見えるように表示する装置です。ディスプレイを見ながらパソコンに指示を出すことができます。本製品では表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1280 × 600 ドット）が内蔵されています。液晶ディスプレイは、画面をごく小さな点に分けて、点ごとに電圧を変化させて画像を表示します。ドットは点の数を表します。表示装置には、液晶ディスプレイの他に、テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する CRT ディスプレイもあります。

 参照  CRT ディスプレイの接続  「6章 6 CRT ディスプレイを接続する」

■ 表示について


- TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け・常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるように管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。


■ 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。


1600 × 1200 ドット	65,536 色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1280 × 600 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色
640 × 480 ドット	1,677 万色

1600 × 1200、1280 × 1024、1024 × 768 ドットの解像度は仮想スクリーン表示になります。

-  ● 1,677 万色はディザリング表示です。


-  ● **ディザリング** ● 1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法。

解像度を変える

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブで、[画面の領域] を変更する
パソコンの絵の中に、プレビューが表示されます。



- 3 [OK] ボタンをクリックする


-  ●それぞれのパソコンには、ディスプレイの大きさに応じて、適した表示サイズがあります。かえって見づらくなる場合は、元の設定に戻してください。

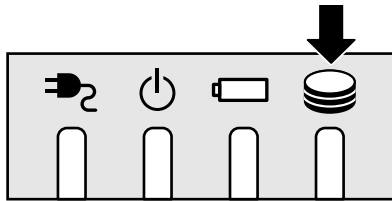
4

ハードディスクドライブ


ハードディスクドライブとは、データを磁気で記憶する装置です。電源を切っても、データが消えることはありません。フロッピーディスクやCD-Rと比べて容量が大きいためたくさんのデータを記憶できます。本製品にはハードディスクドライブが内蔵されています。取りはずしはできません。必要があれば、PCカードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすこともできます。

ハードディスクドライブに関する表示

ハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



お願い

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。

ハードディスクに記憶された内容は故障や損害の原因にかかわらず保証いたしかねますので、ご了承ください。

万一故障した場合に備え、バックアップを取ることをおすすめします。

お願い

- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的に外部メディアなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、外部メディアなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

5

音量の調節

1 スピーカの音量を調節する

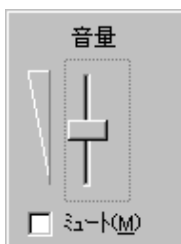
スピーカの音量調節は、ボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」を使用します。

ボリュームダイヤルで調節する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。

【音量】アイコンから調節する

- 1 タスクバー上の【音量】アイコン (🔊) をクリックする
次の画面が表示されます。



- 2 つまみを上下にドラッグして調節する


つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート]をチェックすると、消音になります。

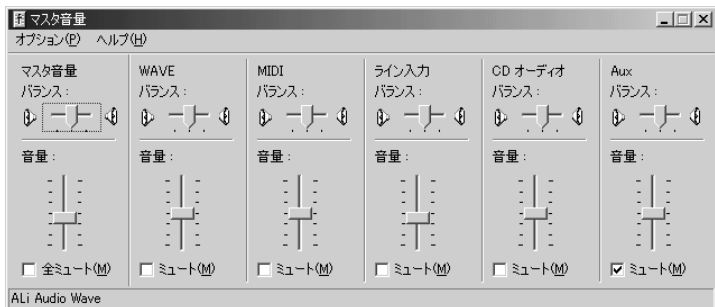
使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。

- 本製品のボリュームダイヤルで音量を調節する
- 使用しているアプリケーションの設定を変える
- 外部マイクをスピーカから離す

マスタ音量で調節する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 タスクバー上の「音量」アイコン () をダブルクリックする
または、
[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする



(表示例)

- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調節する

つまみを上にするるとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。

■ 音楽／音声を再生するとき

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調節できます。



- | | |
|----------|---|
| マスタ音量 | : 全体の音量を調節する |
| WAVE | : MP3 ファイル、Wave ファイル、
音楽 CD、DVD-ROM、DVD-Video など |
| MIDI | : MIDI ファイル |
| CD オーディオ | : 音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合) |

また、お使いのアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』をご覧ください。

2 音楽／音声の録音レベルを調節する


録音レベルの調節は、次のように行います。

パソコン上で録音するとき

- 1 タスクバーの [音量] アイコン () をダブルクリックする
または、
[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
 - 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
 - 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
 - 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
 - 5 [OK] ボタンをクリックする
 - 6 [録音の調節] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : 外部マイクから録音するとき
 - 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
-  ● 同時に2つのデバイスを選択することはできません。
● 録音したい音楽／音声は「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

3 システムスピーカについて

システムスピーカを設定すると、パソコンのハードウェアの状態を知ることができます。ご購入時は「鳴らす」に設定されています。

1 [コントロールパネル] を開き、[東芝HWセットアップ] アイコン () をダブルクリックする

2 [アラーム] タブで設定する

鳴らす場合は [システムビープ音を鳴らす] をチェックします ()。音量は [アラーム音量] のスライダーバーをドラッグして調整します。

6

内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90 以外の場合は、最大 33.6Kbps で接続されます。

■ 使用上のお願い

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。



- **分岐アダプタ** ● 1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
- **回線切換器** ● 1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。



- PC カード接続のハードディスクドライブやCD-ROM ドライブなどの動作中に、通信を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・ 通信回線の速度が遅くなる
 - ・ 通信回線が切断される
 - ・ ダイヤルに失敗する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。


アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001年8月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。

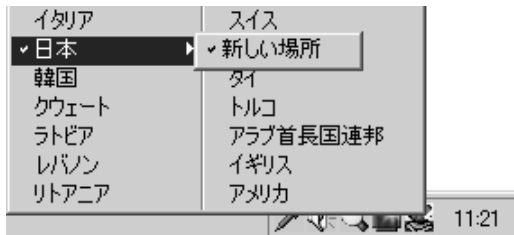
他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Toshiba Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () がタスクバーに表示されます。



2 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。
現在設定されている地域設定と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。




(表示例)

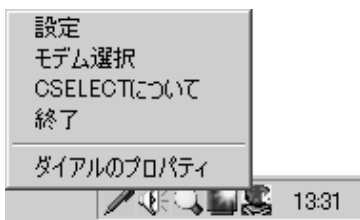
3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする地域名を選択した場合、表示される [ダイヤルのプロパティ] 画面で新しく所在地情報を作成します。

この場合、新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

その他の設定

- 1 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



(表示例)

【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、 [ダイヤルのプロパティ] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[ダイヤルのプロパティ] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、 [ダイヤルのプロパティ] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】


COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[ダイヤルのプロパティ] 画面を表示します。

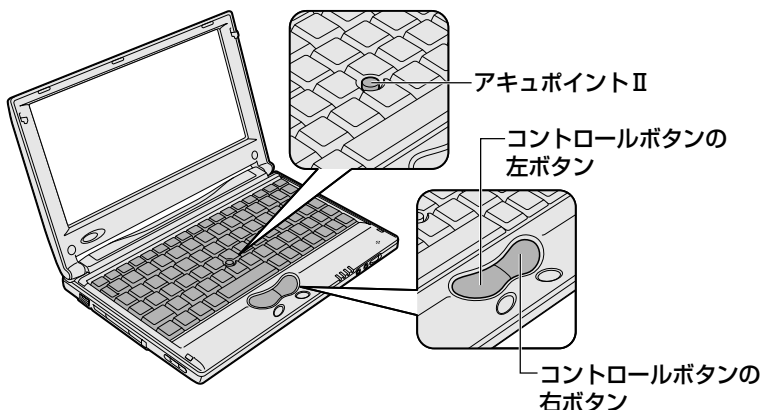
7

アキュポイントⅡと コントロールボタン

電源を入れてWindowsを起動すると画面上に  が表示されます。これを「ポインタ」といいます。

パソコンは、主にこの「ポインタ」を動かしてパソコンを操作していきます。「ポインタ」を動かす装置として、本製品にはアキュポイントⅡとコントロールボタン（左、右）が用意されています。

アキュポイントⅡとコントロールボタンでポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。



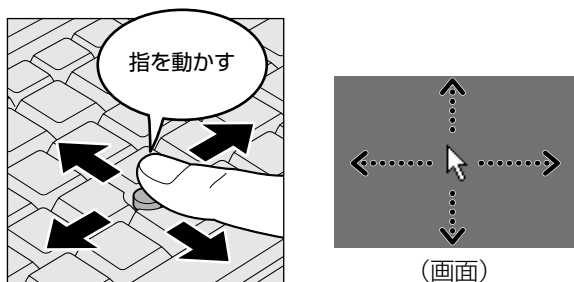
お願い

- この場合、アキュポイントⅡを操作しなくても、画面上のポインタが移動することがあります。
 - ・ 電源を入れたとき
 - ・ 一定の力で一定方向にポインタを移動し続け、指を離れたとき
 - ・ 温度が急激に変化したとき

この場合は、10秒以上待ってから、アキュポイントⅡを使用してください。

ポインタを動かす

アキュポイントⅡに指を置き、押さえながら指を前後左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。



クリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを1回押すことです。



アイコン、文字などを選択するときに使います。アイコンなどを選択すると、色が変わります。これを「反転表示」といいます。

<クリックする前>



マイドキュメント

<クリックした後>



マイドキュメント

ダブルクリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく2回押すことです。

ファイルを開いたり、アプリケーションを起動できます。



右クリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを1回押すことです。

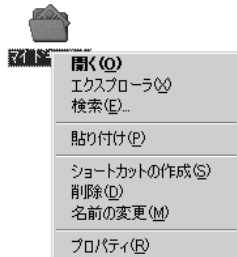
メニューが表示されるので、行いたいことを選択します。



<右クリックする前>



<右クリックした後>



ドラッグアンドドロップする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま①、アキュポイントⅡでポインタを動かします②（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、左ボタンから指をはなします③（ドロップ）。



8

キーボード

1 キーボードについて

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。





■ 文字キー

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、制御キーで使い分けます。

■ 左上

(Shift)キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

■ 右上

かな入力ができる状態で (Shift)キーを押しながら押すと、記号、ひらがなのそくおん促音(小さい「っ」、ようおん拗音(小さい「ゃ、ゆ、よ」)が入力できます。

■ 左中

他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。大文字ロック状態にすると、大文字も入力できます。

■ 右中

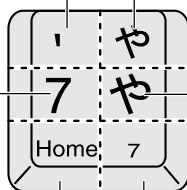
かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。


■ 左下

アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。


■ 右下


数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。



 アロー状態、数字ロック状態 ⇨ 「本節 (Fn)キーを使った特殊機能キー」

(Fn)キーを使った特殊機能キー










キー	内容
(Fn)+(F1)	「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。 スクリーンセーバーを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、アキュポイントIIの操作を行なってください。 スクリーンセーバーのパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。 パスワードは、[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで設定してください。  詳細について ⇨ 「5章 4-4 スクリーンセーバーパスワード」

<p>(Fn) + (F2) <省電力モードの設定></p>	<p>(Fn) + (F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。</p>
<p>(Fn) + (F3) <使用する機能の選択></p>	<p>(Fn) + (F3)キーを押すと、電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）のメニューが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F3)キーを押すたびに、表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。</p>
<p>(Fn) + (F4) <アラーム音量の調節></p>	<p>アラーム音量を調節します。ピープ音で音量を知らせます。 (Fn)キーを押したまま、(F4)キーを押すたびに音量が変わります。 ↓OFF→小→中→大↑</p>
<p>(Fn) + (F5) <表示装置の切り替え></p>	<p>表示装置を切り替えます。  詳細について ◎「6章 CRT ディスプレイを接続する」</p>
<p>(Fn) + (F6) (Fn) + (F7) <輝度の調節></p>	<p>(Fn) + (F6)または(Fn) + (F7)キーを押すと、画面の輝度を変更できます。 (Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに画面の輝度が下がり、暗くなります。 (Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに画面の輝度が上がり、明るくなります。</p>
<p>(Fn) + (F10) <アロー状態></p>	<p>キートップ左下に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F10)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (F11) <数字ロック状態></p>	<p>キートップ右下に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F11)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (F12) <スクロールロック状態></p>	<p>一部のアプリケーションで(↑) (↓) (←) (→)キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F12)キーを押します。</p>

(Fn)+(↑) <ページアップ> (Fn)+(↓) <ページダウン>	カーソルの位置を移動できます。
(Fn)+(←) <ホーム> (Fn)+(→) <エンド>	ページを上下に移動できます。 (Fn)キーを押したまま、(←)を押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。 (Fn)キーを押したまま、(→)を押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

キーを使ったショートカットキー

 (ウィン) キーと他のキーとの組み合わせを、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
 +(R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 +(M)	すべてをアイコン化する
Shift+()+(M)	すべてのアイコン化を元に戻す
 +(F1)	Windows の『ヘルプとサポート』を起動する
 +(E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 +(F)	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl+()+(F)	他のコンピュータを検索する
 +(Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 +(Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	操作
システムの再起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	プログラムの強制終了画面が表示されます。もう1度押すと、システムを再起動します。
画面コピー	(Fn) + (Ins)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Fn) + (Alt) + (Del)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。



参照 (Ctrl) + (Alt) + (Del) キーでの再起動について

⇒ 『困ったときは 2章 その他-Q. パソコンが応答しない』



- システムが操作不能になったとき以外は、(Ctrl) + (Alt) + (Del) キーは使用しないでください。データが消失するおそれがあります。

2 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が用意されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。次の方法で日本語を入力できるようになります。

■ **半/全**キーを押す

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。
IME ツールバーは、デスクトップの右端に表示されています。



パソコンで入力できる文字には、「半角」「全角」2種類の大きさがあります。「半角」は漢字モードではないときに普通に表示される文字で、少し縦長です。「全角」は半角を二つあわせたくらいの大きさになります。英数字やカタカナは半角・全角どちらでも入力できます。ひらがなと漢字は全角でのみ入力できます。

例

A ア
(半角)

A ア
(全角)

2章 インターネットを 楽しもう

- 1 Internet Explorer の使いかた 38
- 2 簡単にホームページに接続する
(東芝ネットメニュー) 59
- 3 プログラムファイルをダウンロードする 60

1

Internet Explorer の使いかた

インターネット エクスプローラ











ホームページを楽しむために、Internet Explorerの使いかたを覚えましょう。

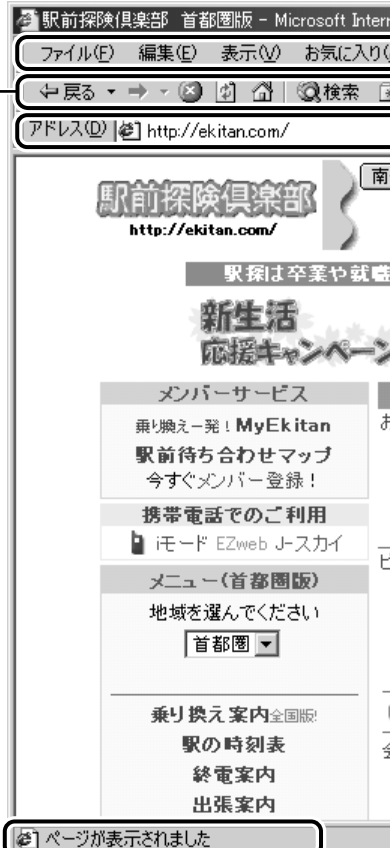
* 本章で使用している画面は表示例です。ホームページのアドレス、画面などは、変更になる場合があります。


1 Internet Explorer画面

ツールバー

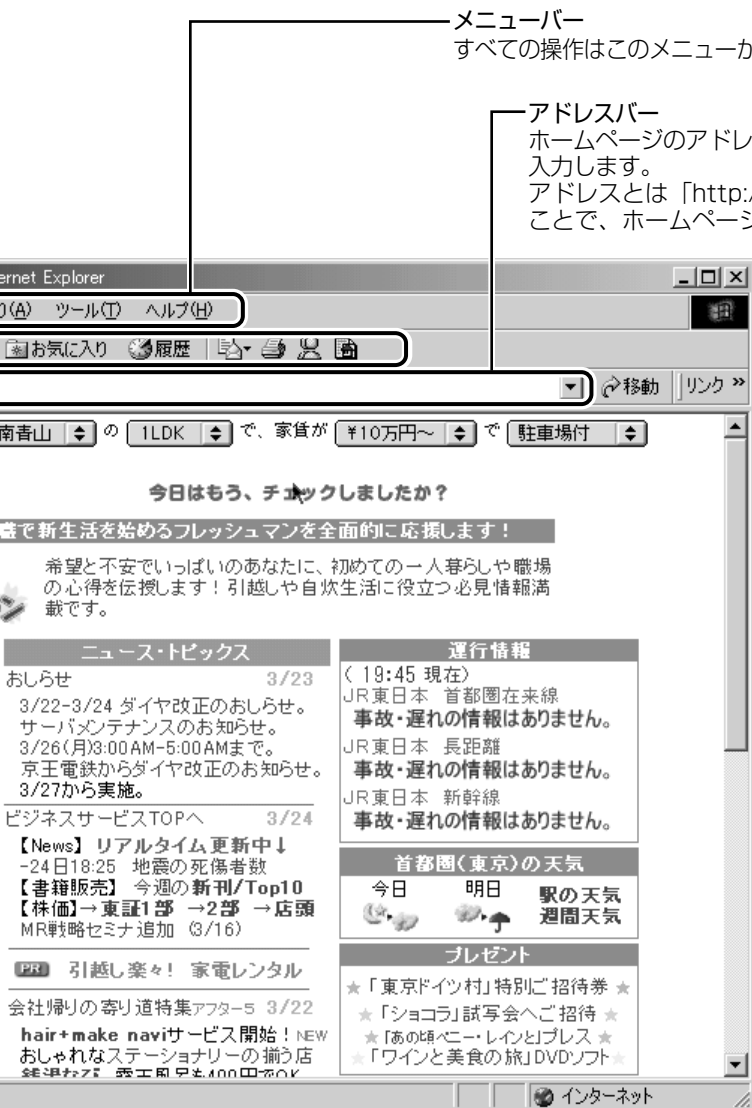
よく使う機能がボタンでまとめられています。
よく使われるボタンの働きを説明します。

-  1つ前の画面に戻ります。
-  1つ先の画面に進みます。
-  ページの読みこみを中止します。
-  ページを最新の情報に更新します。
-  どのページを表示していても、スタートページが表示されます。
☞「本節 4 起動したときに表示するページを変更する」
-  検索の画面を表示します。
☞「本節 2 ホームページを検索する」
-  よく見るページなどを登録し、簡単にページが開けるようにします。
☞「本節 3 よく見るページを登録する（お気に入り）」
-  以前に表示したページを表示します。
☞「本節 8 以前に表示したホームページを表示する」
-  メールソフトを起動します。
-  ページを印刷します。




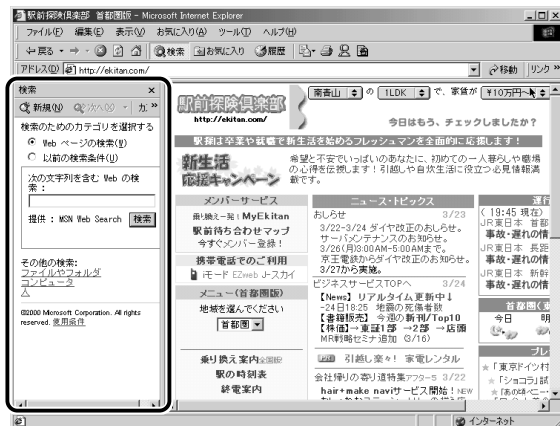
 ページが表示されました

ステータスバー
接続状態を表示します。

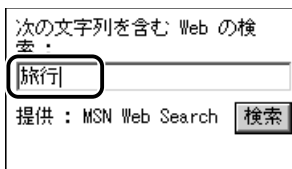


2 ホームページを検索する

- 1 ツールバーの「検索」ボタン ( 検索) をクリックする
左側に検索画面が表示されます。

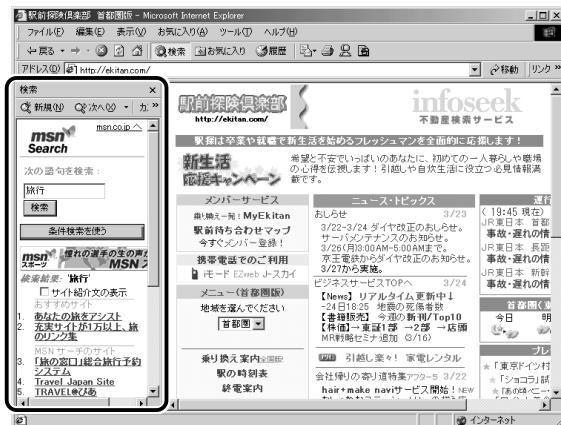


- 2 探したいページのキーワードを入力する
ここでは「旅行」と入力してみます。



3 [検索] ボタンをクリックする

検索結果が表示されます。ご覧になりたい項目をクリックすると、ページが表示されます。



3 よく見るページを登録する(お気に入り)

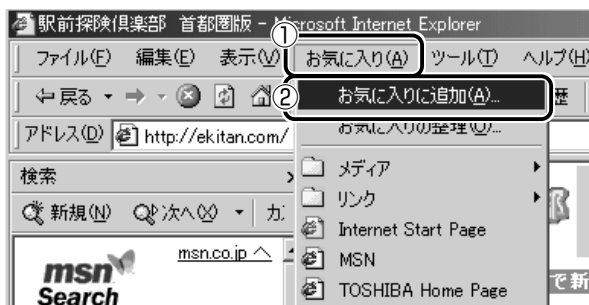
よく見るホームページを「お気に入り」に登録しておきます。「お気に入り」に登録しておくことで、アドレスなど面倒な入力をせずに、見たいホームページを表示できます。



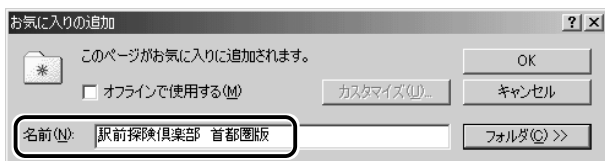
- **アドレス** ● 「http://」の後に続く英数字のことで、ホームページの場所を示す。住所のようなもの。URL とも呼ばれる。

【お気に入り】に登録する

- 1 登録したいホームページを表示する
ここでは「http://ekitan.com/」のページを例にして説明します。
- 2 メニューバーの【お気に入り】をクリックし①、表示されたメニューから【お気に入りに追加】をクリックする②

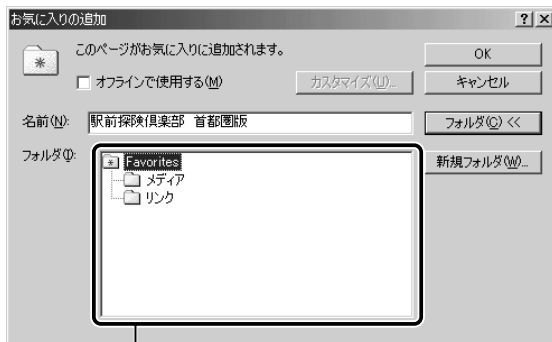


- 3 【名前】を入力する
ここでは、「駅前探検倶楽部 首都圏版」で登録します。



- 4 登録するフォルダを指定しない場合は【OK】ボタン、指定する場合は【フォルダ】ボタンをクリックする
フォルダを指定しない場合は登録完了です。
フォルダを指定する場合は手順5以降をご覧ください。
- 5 【フォルダ】を指定する

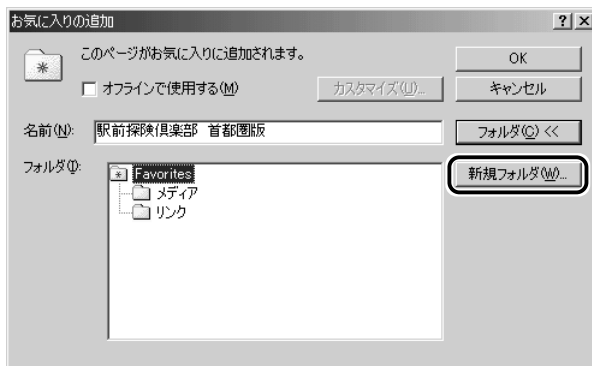
■ 既存のフォルダに登録する場合



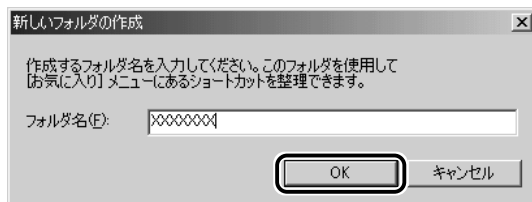
目的のフォルダをクリックし、[OK] ボタンをクリックする

■ 新規にフォルダを作成する場合

① [新規フォルダ] ボタンをクリックする

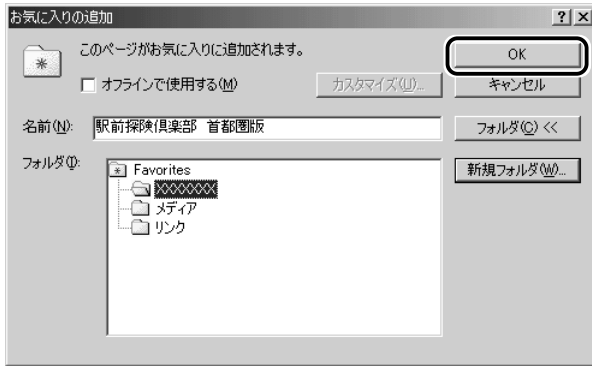


② 名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする




フォルダが作成されました。

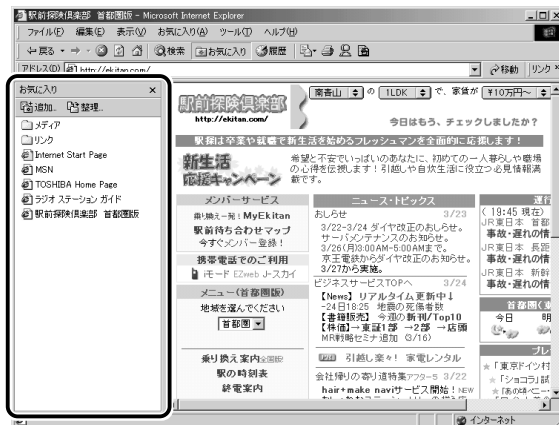
- ③ 作成したフォルダが反転表示している状態で [OK] ボタンをクリックする



[お気に入り] からホームページを表示する

■ 方法 1

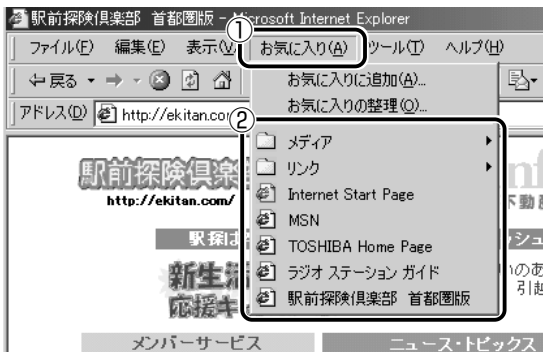
- 1 ツールバーの [お気に入り] ボタン ( お気に入り) をクリックする
左側に [お気に入り] 画面が表示されます。



- 2 目的のフォルダまたはホームページをクリックする

■ 方法2

- 1 メニューバーの【お気に入り】をクリックし①、表示されたメニューからフォルダまたはページをクリックする②

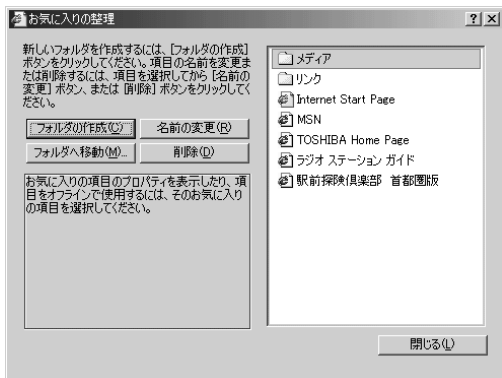


【お気に入り】を整理する

- 1 メニューバーの【お気に入り】をクリックし①、表示されたメニューから【お気に入りの整理】をクリックする②



[お気に入りの整理] 画面が表示されます。



■ 新しくフォルダを作成する

- 1 [フォルダの作成] ボタンをクリックする
[新しいフォルダ] が作成されます。
- 2 名前を入力する

■ 登録してあるフォルダを変更する

- 1 変更したいフォルダまたはホームページをクリックし、
[フォルダへ移動] ボタンをクリックする
フォルダの一覧が表示されます。
- 2 移動先のフォルダをクリックし、[OK] ボタンをクリックする

■ [お気に入り] から削除する

- 1 削除したいフォルダまたはホームページをクリックし、[削除] ボタンをクリックする
確認のメッセージが表示されます。
- 2 [はい] ボタンをクリックする

4 起動したときに表示するページを変更する

Internet Explorer を起動したときに最初に表示されるホームページを「スタートページ」といいます。スタートページは、自由に設定することができます。

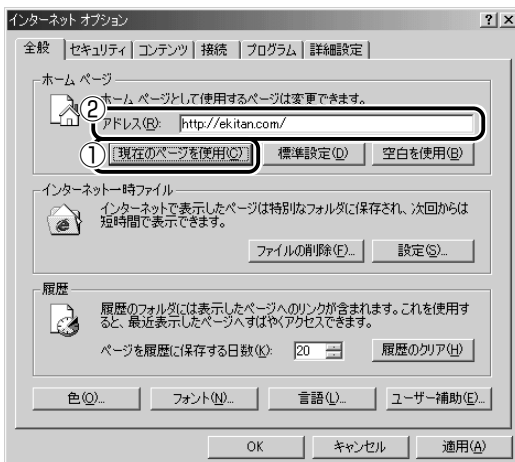
- 1 スタートページにしたいホームページを表示する
ここでは「http://ekitan.com/」を例にして説明します。
- 2 メニューバーの「ツール」をクリックし①、表示されたメニューから「インターネットオプション」をクリックする②



- 3 [全般] タブの「ホーム ページ」で「現在のページを使用」ボタンをクリックする①

[アドレス] に、表示しているホームページのアドレスが表示されます②。

[標準設定] ボタンをクリックすると、ご購入時の設定に戻ります。





● [アドレス] にスタートページにしたいホームページのアドレスを直接入力して設定することもできます。この場合、あらかじめホームページを表示しておく必要はありません。

4 [OK] ボタンをクリックする

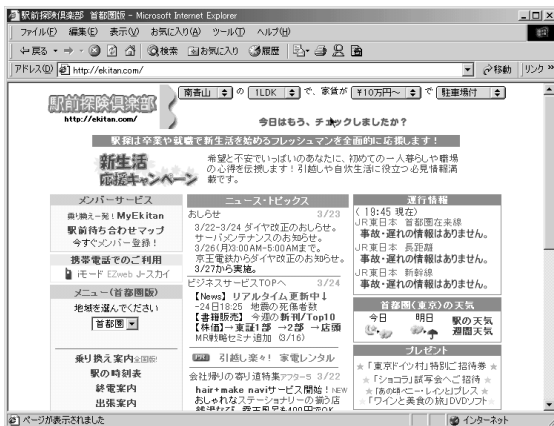
スタートページに戻る

他のホームページを表示していても、[ホーム] ボタンをクリックするだけでスタートページへ移動することができます。

1 ツールバーの [ホーム] ボタン () をクリックする



スタートページが表示されます。



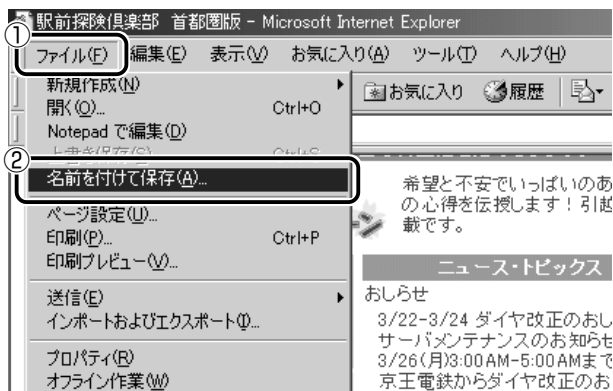
5 ホームページを保存する

後でゆっくり見たいホームページや保存しておきたいホームページを文章やイラストごとダウンロードし、1つのファイルとして保存できます。

1 保存したいホームページを表示する

ここでは「http://ekitan.com/」を例にして説明します。

2 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [名前を付けて保存] をクリックする②



3 保存先、ファイル名を選択する

保存する場所、ファイル名を指定してください。



[ファイルの種類] で保存する内容を選択できます。

[Web ページ、完全 (*.htm ; *.html)] :

表示されているホームページの内容がすべて表示されます。
保存されるときは画像ファイルなどは別のファイルで保存されます。

[Web アーカイブ、単一のファイル (*.mht)] :

表示されているホームページの内容が 1 つのファイルですべて保存されます。

[Web ページ、HTML のみ (*.htm、*.html)] :

表示されているホームページが htm ファイルの形式で保存されますが画像などは保存されません。

[テキストファイル (*.txt)] :

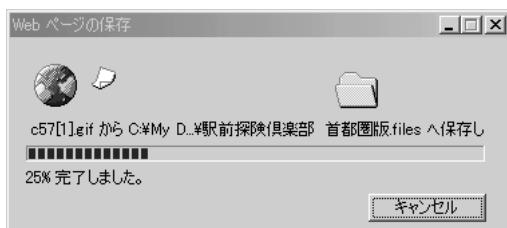
文字だけが保存されます。画面上では文字であってもその文字が画像として作成されていた場合は保存されません。表示するときは「メモ帳」などで開きます。

ここでは、[Web ページ、完全 (*.htm、*.html)] を選択した場合で説明します。

[エンコード] では [日本語 (シフト JIS)] を選択してください。

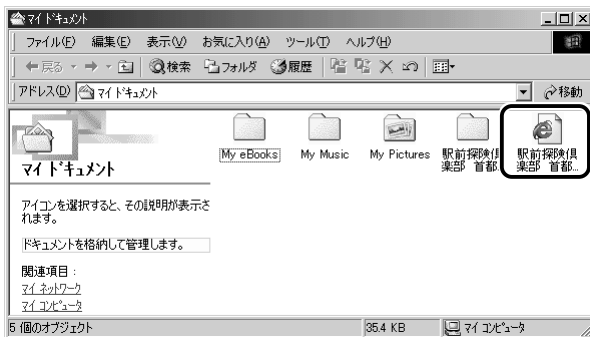
4 [保存] ボタンをクリックする

ダウンロードが開始されます。



ホームページのファイルと同じファイルが [マイドキュメント] に保存されます。

保存したページを見るには、ホームページのファイルをダブルクリックします。



ホームページのファイルと同じ名前のフォルダには、そのページに使われているイラストなどが保存されています。

ホームページのファイルあるいはフォルダのどちらかを移動あるいは削除すると、もう一方も一緒に移動あるいは削除されますので、同じ場所に保存してください。

6 ホームページの画像を保存する

表示しているホームページ上の画像をパソコンに保存することができます。ここでは「http://dynabook.com/pc/entame/katsuyo/blth/index_j.htm」のページの画像を例にして説明します。

- * このホームページに記載のイラスト・写真・文章の無断の転載を禁じます。すべての著作権は株式会社東芝に帰属します。



1 保存したい画像の上にポインタをあわせる



2 右クリックし、表示されたメニューから「名前を付けて画像を保存」をクリックする



[画像の保存] 画面が表示されます。

3 保存する場所とファイル名を確認する

保存する場所を変更したい場合は、[保存する場所] の右端の ▼ ボタンをクリックします。場所の一覧が表示されますので、保存先を選択してください。

[ファイル名] には、ホームページ上の画像のファイル名が表示されます。ファイル名は自由に変更できます。



4 [保存] ボタンをクリックする

7 ホームページの画像を壁紙に設定する

ホームページ上の画像をデスクトップの壁紙にすることができます。
ここでは「http://dynabook.com/pc/entame/katsuyo/blth/index_j.htm」のページの画像を例にして説明します。

* このホームページに記載のイラスト・写真・文章の無断の転載を禁じます。
すべての著作権は株式会社東芝に帰属します。




1 壁紙に設定したい画像の上にポインタをあわせる

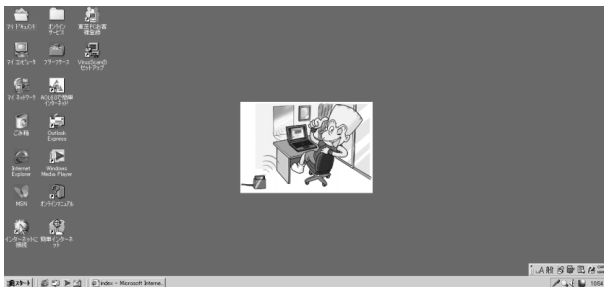




2 右クリックし、表示されたメニューから「壁紙に設定」をクリックする



画像が壁紙に設定されます。


Internet Explorerの画面の「最小化」ボタン () をクリックし、デスクトップ画面の壁紙を確認してください。



-  ● ウィンドウが複数開いている場合は、タスクバーの「デスクトップの表示」ボタン () をクリックすると、1度にすべてのウィンドウが最小化され、デスクトップ画面が表示されます。

■ 壁紙を拡大する／並べて表示する

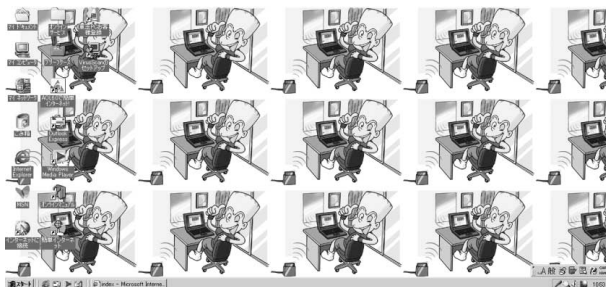
壁紙が小さい場合、拡大したり、画面いっぱいにならべて表示することができます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
- 2 [画像の位置] で、拡大したい場合は [拡大して表示]、並べたい場合は [並べて表示] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

【拡大して表示】




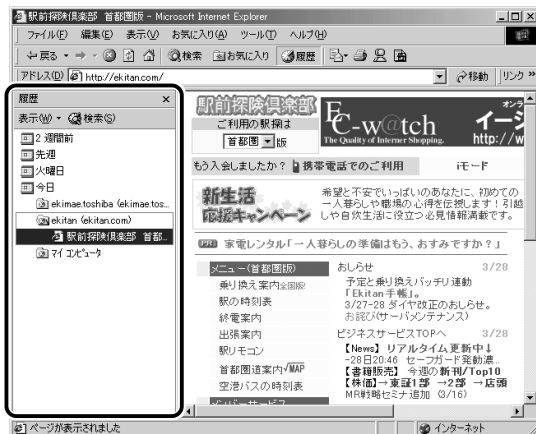
【並べて表示】



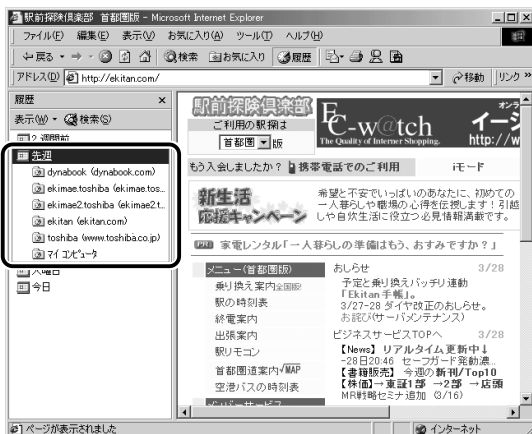
8 以前に表示したホームページを表示する

過去に表示したことがあるホームページの履歴は、一定期間保存されています。履歴を検索して、以前に表示したホームページをもう1度表示させることができます。

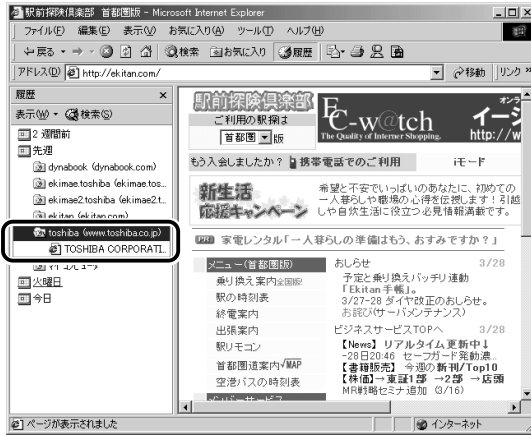
- 1 ツールバーの「履歴」ボタン（）をクリックする
左側に履歴画面が表示されます。



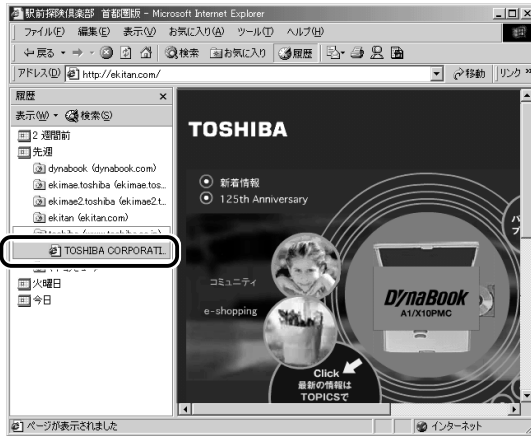
- 2 目的のホームページを表示した週または曜日をクリックする
その週または曜日に表示したホームページの場所の一覧が表示されます。



- 3 目的のホームページがある場所をクリックする
その場所で表示したホームページの一覧が表示されます。



- 4 目的のホームページをクリックする
ホームページが表示されます。



ツールバーの「履歴」ボタンをもう1度クリックすると、左側の履歴画面が閉じます。

- メモ ● 履歴の保存期間は、メニューバーの「ツール」→「インターネットオプション」→「全般」タブの「履歴」で設定することができます。

2

簡単にホームページに接続する (東芝ネットメニュー)

「東芝ネットメニュー」のアイコンをクリックすると、アドレスを入力することなく簡単にホームページに接続できます。





■ Active Desktop を設定する

「東芝ネットメニュー」を表示するためには、Active Desktop を設定する必要があります。

 参照  Active Desktop の設定  《オンラインマニュアル》

■ 表示位置を変更する

表示されているメニューを移動することができます。

ポインタを  にあわせるとグレーのタイトルバーが表示されます。タイトルバーをドラッグし、好きな位置に移動してください。メニューを閉じるには、[閉じる] ボタン () をクリックしてください。

■ 「東芝ネットメニュー」を表示する

メニューを閉じてしまった後、もう 1 度表示したい場合は次の手順で表示できます。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [東芝ネットメニュー] → [東芝ネットメニューの初期化] をクリックする
- 2 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

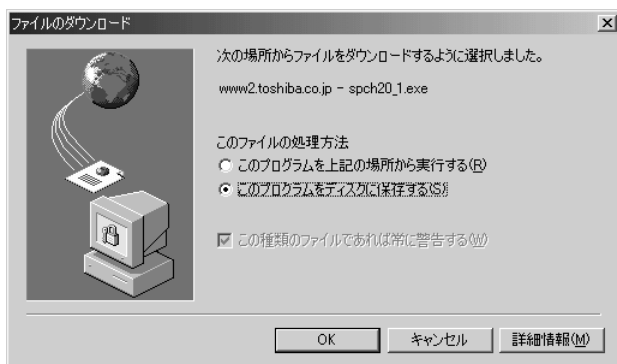
3

プログラムファイルをダウンロードする

ホームページには、プログラムなどのファイルを提供しているものがあります。ファイルのダウンロードを選択すると、次のような画面が表示されます。



- ファイルの種類によっては、1 つめの項目が「このプログラムを上記の場所から開く」と表示されます。



(表示例)

ホームページの場所からプログラムなどのファイルを実行する方法は、実行に時間がかかったり、実行中に何らかの理由でインターネットへの接続が切断されるなど、失敗する場合があります。

そのため、「このプログラムをディスクに保存する」方法をおすすめします。ディスクに保存するとは、ホームページからファイルをダウンロードして自分のパソコンに保存することです。

この方法には次のような利点があります。

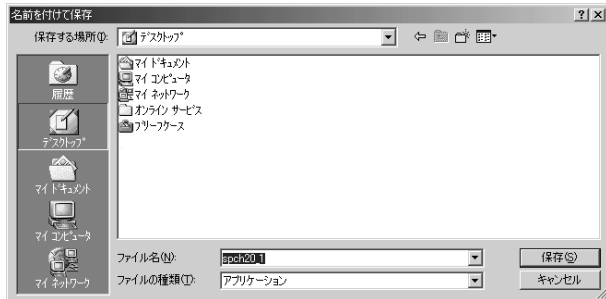
- ・ ファイルにウイルスはないか、チェックできる
- ・ 他のアプリケーションを終了してから、ファイルを実行することができる
- ・ インターネットへの接続を切断してから、ファイルを実行することができる

ファイルをダウンロードしてディスクに保存する方法を説明します。

- 1 [このプログラムをディスクに保存する] をチェックし、
[OK]ボタンをクリックする



- 2 保存先、ファイル名を選択する
保存する場所、ファイル名を指定してください。

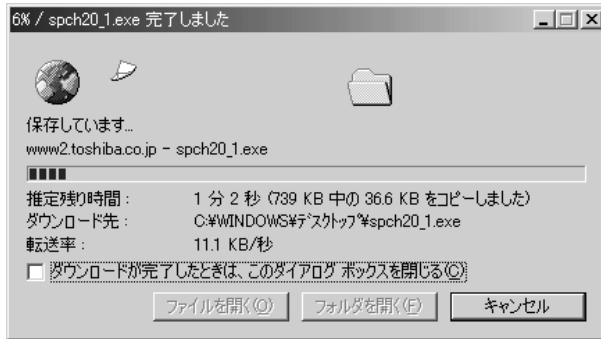


3 [保存] ボタンをクリックする

ダウンロードが開始されます。

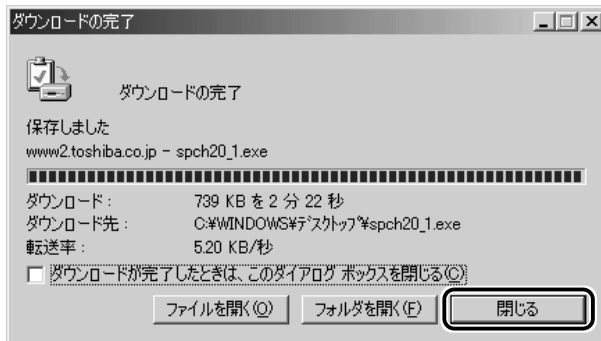
ファイルサイズが大きいと、ダウンロードに時間がかかります。

ダウンロードが終了すると、終了画面が表示されます。



- [ダウンロードが完了したときは、このダイアログボックスを閉じる] をチェックすると、閉じるための操作をしなくてもダウンロード終了後、画面が閉じます。

4 [閉じる] ボタンをクリックする



ダウンロードしたファイルを実行するには、保存したファイルをダブルクリックします。

3章 電子メールを使おう

- 1 電子メールとは? 64
- 2 Outlook Express の使いかた 66

1

電子メールとは？

1 電子メールとは？

電子メールとは、インターネット上でやりとりする「手紙」です。郵便の手紙と比べて料金が安く、世界中どこでも短時間で届きます。また、電話などと違い、時間を気にせず送ったり、受け取ったりできるので便利です。さらに、画像や文書ファイルなどのデジタルデータもメールと一緒に送れるため、友人同士のコミュニケーションはもちろん、ビジネスでも欠かせないものになっています。

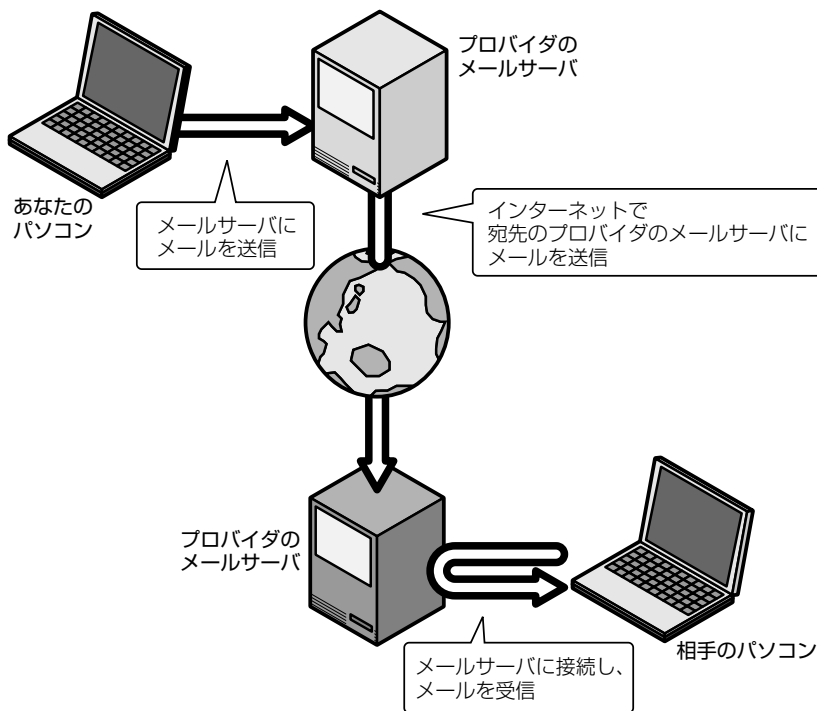
「Eメール（Electronic Mailの略）」や、「インターネットメール」、「メール」と呼ぶこともあります。本書では「メール」という言葉を使用します。

2 メールのおしくみ

パソコンで作った文章や画像などのデータは、電話回線を介してプロバイダのメールサーバに届きます。プロバイダのメールサーバは、宛先のプロバイダのメールサーバにデータを送ります。データを受け取ったプロバイダは、受信者別にメールを整理して保存します。受信者は、プロバイダのメールサーバに接続し、自分宛に届いたメールを受け取り、パソコンに保存します。このように、メールは、自分の都合に合わせて送受信することができます。



- **メールサーバ** ● メール配信サービスを提供するコンピュータ。メールの配信では、送信のために利用される SMTP サーバと、届いたメールを保存し、受信者が取りにくるのを待つ POP3 サーバの2種類がある。



2

Outlook Express の使いかた


本製品にはメールソフト「Outlook Express」がプレインストールされています。

Outlook Express をご使用になる前にあらかじめプロバイダへの入会やメールの設定などを完了させてください。

メールの設定については、各プロバイダにお問い合わせください。

1 起動する

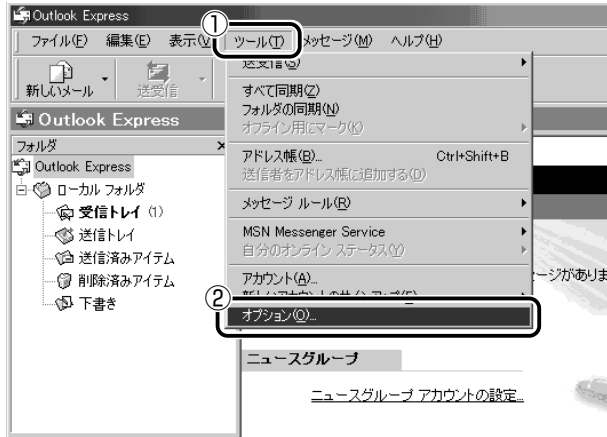
Outlook Express を起動する方法を説明します。

- 1 デスクトップ上の [Outlook Express] アイコン () をダブルクリックする

2 オプションの設定

Outlook Express をより便利に使うための設定をご紹介します。

- 1 メニューバーの [ツール] をクリックし①、表示されたメニューから [オプション] をクリックする②



[オプション] 画面が開きます。

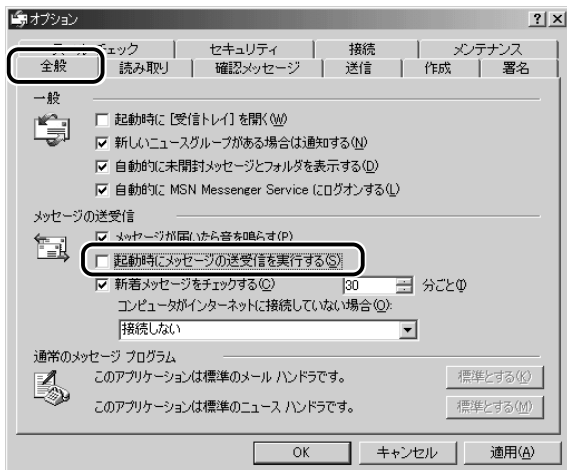
2 各タブで設定を行う

オプションの設定は必ずしも行う必要はありませんが、設定すると Outlook Express をより便利に使うことができます。本書では、オプション 1～4 の設定を行なった前提で説明しています。

■ オプション 1 手動でメールのメッセージを受信する場合

[全般] タブの [メッセージの送受信] で [起動時にメッセージの送受信を実行する] のチェックをはずす

メールの送受信を行うときだけメールサーバに接続する設定になります。[起動時にメッセージの送受信を実行する] をチェックしていると、Outlook Express を起動すると同時にインターネットに接続してしまいます。通常は Outlook Express を起動してから、都合のいいときに手動で送受信を実行したほうが便利です。

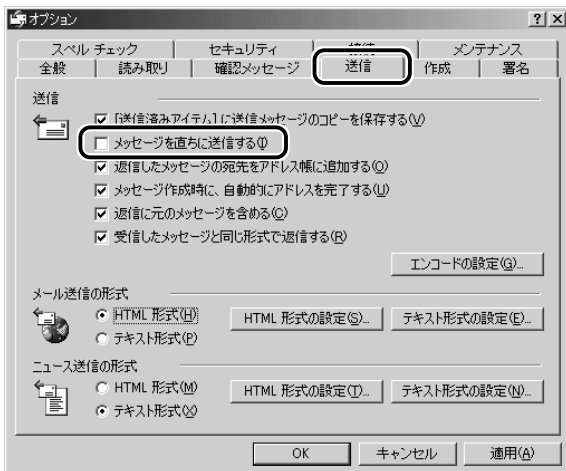


■ オプション2 数通のメールをまとめて送りたい場合


[送信] タブの [送信] で [メッセージを直ちに送信する] のチェックをはずす

メールの送信をまとめて行う設定になります。

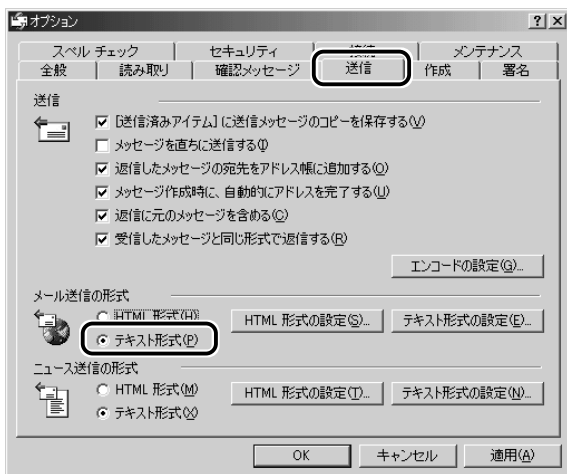
メールを1通書くたびにインターネットに接続するのではなく、手動で送信を実行したほうが数通のメールをまとめて送りたい場合などに、便利です。



■ オプション3 メール形式を選択する場合

[送信] タブの [メール送信の形式] で [テキスト形式] をチェック () する

HTML 形式で送信した場合、相手のメールソフトが HTML 形式に対応していないと、メールが文字化けして、内容を読むことができない場合があります。通常は、どのメールソフトでも読めるように、テキスト形式でメールを送るほうが良いでしょう。



- **テキスト形式** ● メール本文が文字だけで記述されていること。
- **HTML形式** ● メール本文が htm ファイル形式で記述されていること。画像を貼りこんだり、リンクを貼れる。
- **文字化け** ● 文章が意味不明な文字の羅列で表示され、読めない状態。データのやり取りをするパソコンやアプリケーション同士の設定が異なる場合などに起こる。

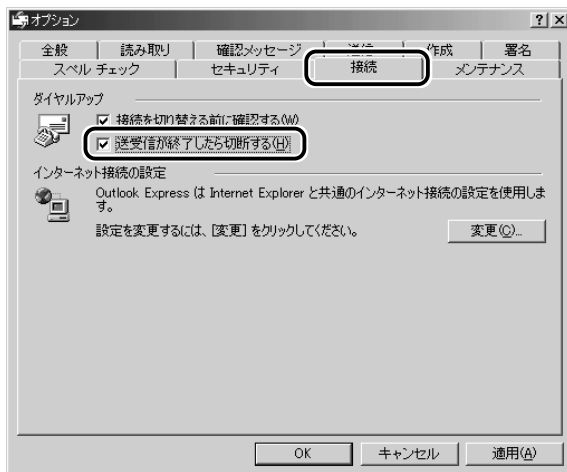
■ オプション4 インターネットへの接続を終了する場合

[接続] タブで [送受信が終了したら切断する] をチェック () する

送受信が完了したら、自動的にインターネットの接続を切る設定になります。

接続したままだと、メールの送受信を実行していなくても電話料金がかかります。一時的にメールの送受信を行うためであれば、送受信後は自動的に接続を切る設定にしておく便利です。

メール送受信の後、接続したままブラウザを起動してホームページの閲覧などを行う場合は、見終わったときに手で必ず接続を切ってください。



3 [OK] ボタンをクリックする











以上で基本的なオプションの設定は完了です。

3 Outlook Express画面

メニューバー
すべての操作はこのメニューから行えます。

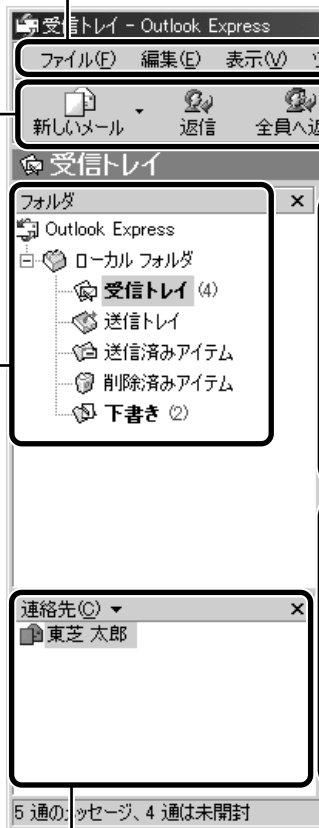
ツールバー

よく使う機能がボタンでまとめられています。
表示されるボタンは左画面の「フォルダ」で選択されている項目によって異なります。
よく使われるボタンの働きを説明します。

-  新しいメールを作成します。
⇒「本節 4 メールを作成する」
-  メールを送ってきた相手にメールを返信します。
⇒「本節 6 メールを返信する／転送する」
-  送信元以外にも入力されているメールアドレスに返信します。
⇒「本節 6 メールを返信する／転送する」
-  受け取ったメールを別のメールアドレスに転送します。
⇒「本節 6 メールを返信する／転送する」
-  メールの内容を印刷します。
-  メールを削除します。
⇒「本節 7 メールを削除する」
-  インターネットに接続し、メールの送受信を行います。
⇒「本節 5 メールを送信する／受信する」
-  アドレス帳を開きます。
⇒「本節 9 アドレス帳を使う」
-  メールを検索します。
-  表示する言語を切り替えることができます。

メールの管理を行います。
「()」は未読または未送信のメール数です。

アドレス帳に登録されている連絡先の一覧が表示されます。



メールの情報が表示されます。
メールの差出人、用件、受け取った時間など



インターネットへの接続状態を示します。
「オンライン中」… 接続している状態です。

選択したメールの内容が表示されます。

4 メールを作成する

メールを送受信するときはインターネットへの接続が必要です。しかし、メールを作成したり、受け取ったメールを読むときなどは接続の必要はありません。

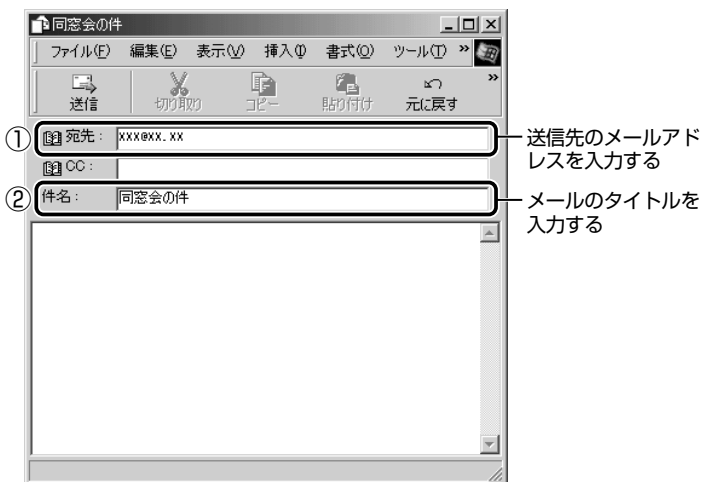
メールの作成が終わった後でインターネットへ接続しましょう。

- メモ** ● インターネットに接続した状態でメールを作成していると、作成中も電話料金やプロバイダの利用料金がかかります。

1 ツールバーの [新しいメール] ボタン () をクリックする

[メッセージの作成] 画面が表示されます。

2 [宛先] (送信先) ①と、[件名] (タイトル) ②を入力する



- メモ** ● メールアドレスは半角で入力してください。
- メールを複数の相手に送る場合は、「:」(セミコロン) で区切ってメールアドレスを入力します。
 - 宛先以外の人に同じメールを送信しておきたい場合は、[CC] にメールアドレスを入力します。
 - 件名に半角カタカナを使用しないでください。

3 メール本文を入力する

送信したい文章を入力してください。

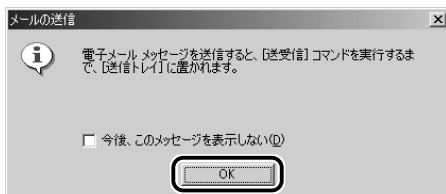
件名やメールの本文を書くときは、半角カタカナを使用しないでください。



4 ツールバーの [送信] ボタン () をクリックする

- メモ**
- 宛先や件名が入力されていない場合は、注意をうながすメッセージが表示されます。内容を確認してください。
 - [今後、このメッセージを表示しない] をチェックすると、この画面は表示されません。

5 [OK] ボタンをクリックする




このとき、まだメールは送信されていません。作成したメッセージは、[送信トレイ] に保存されています。

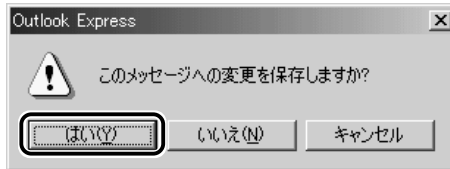
メールをいくつか作成したい場合は、手順1から5を繰り返して行ってください。

すべてのメールの作成が終わったら、インターネットへ接続し、メールを送信します。

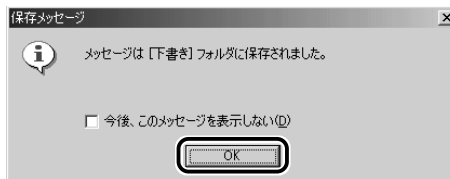
メールを書くのを一時的にやめる

メールを書くのをいったんやめて、その内容を保存しておくことができます。

- 1 メールを作成している画面の「閉じる」ボタン（）をクリックする
- 2 「はい」ボタンをクリックする



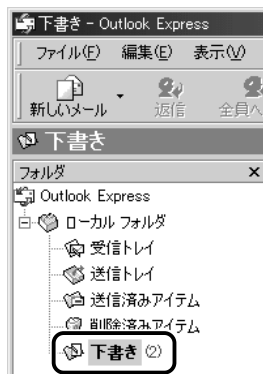
- 3 「OK」ボタンをクリックする



作成したメールは「下書き」フォルダに保存されます。

メールの続きを作成する

- 1 「フォルダ」の「下書き」をクリックする



右画面にメールの一覧が表示されます。

2 一覧から目的のメールをダブルクリックする




作成中のメール画面が開きます。

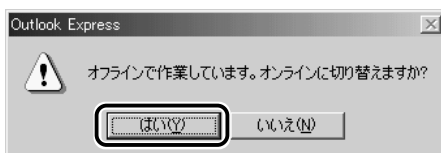
3 メールの続きを入力する



5 メールを送信する／受信する


送信と受信はインターネットに接続したときに、同時に行えます。
送信する場合、[送信トレイ] に保存されているメールが送信されます。受信した場合、メールは [受信トレイ] に保存されます。
送受信の指示を行なった後に、メールの編集や送受信の取り消しはできません。

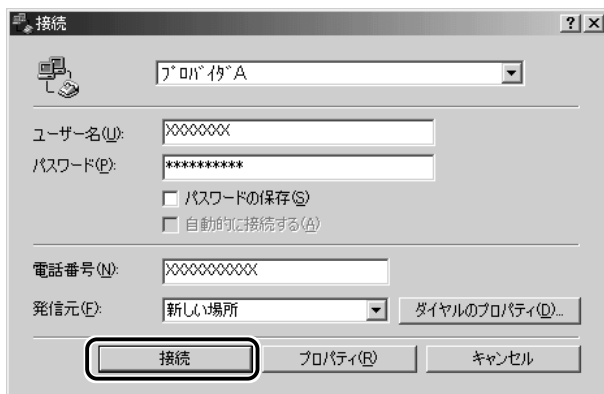
- 1 ツールバーの [送受信] ボタン () をクリックする
- 2 次のメッセージが表示された場合、[はい] ボタンをクリックする



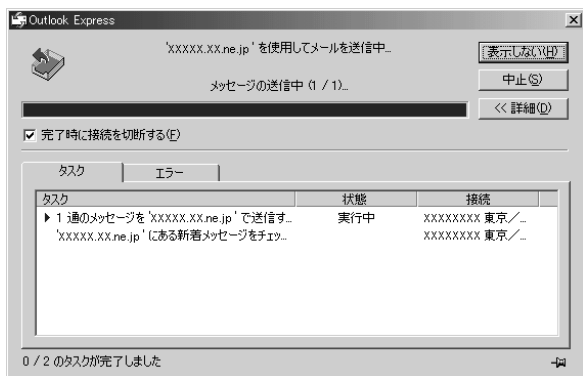
[接続] 画面が表示されます。

- 3 必要な内容を入力し、[接続] ボタンをクリックする

 詳細について ⇨ 『まずはこれから インターネットに接続しよう』



プロバイダのメールサーバに接続し、送受信が始まります。



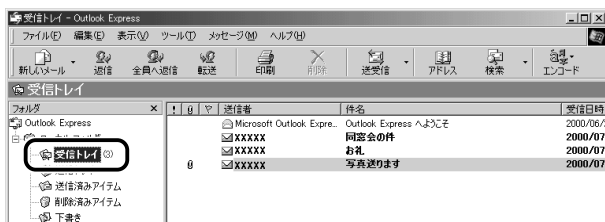
[送信トレイ] に保存されていたメールが送信され、送信済みのメールは [送信済みアイテム] に保存されます。その後、届いているメールをチェックし、受信したメールは [受信トレイ] に保存されます。メールの送受信を完了すると、自動的に接続を切断します。

受信メールを見る




受信したメールは [受信トレイ] に保存されています。

1 [フォルダ] の [受信トレイ] をクリックする

[受信トレイ] のカッコ内には、未開封メールの件数が表示されます。

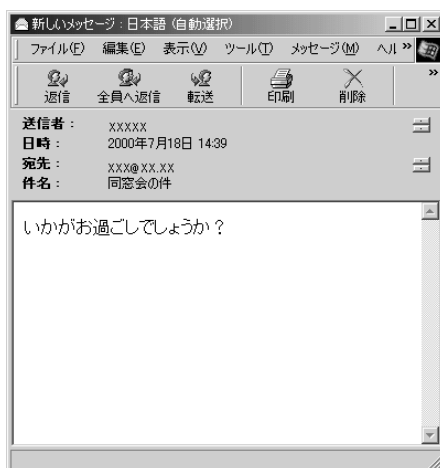


右側に受信したメールの一覧が表示されます。まだ読んでいないメールは送信者、件名などが太字で表示されます。[送信者] の横にあるマークには次のような意味があります。

-  以前開いたメール (開封済み)
-  読んでいないメール (未開封)
-  ファイルが添付されている

2 見たいメールをダブルクリックする

メールが開きます。



- メールが長い場合は、スクロールして読んでください。
- ファイルが添付されているメールには、[件名] の下に [添付] が追加され、添付ファイルの名称が表示されます。



添付ファイルの開きかたについて

➡ 「本節 10- メールに添付されたファイルを開く」

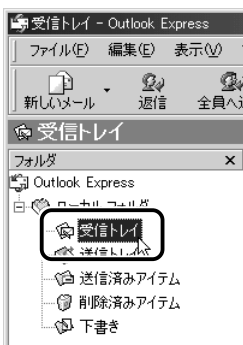
6 メールを返信する／転送する

受信したメールに返事を出すことを返信といいます。受信したメールを別の相手に送ることを転送といいます。


どちらも、元のメールの本文が自動的にコピーされるので、返事を入力したり、別の相手に伝えるのに便利です。また返信の場合、相手のメールアドレスを入力する手間が省けます。

返信する


1 [フォルダ] の [受信トレイ] をクリックする





右側に受信メールの一覧が表示されます。

-  ● メールの整理などを行い、目的のメールが [受信トレイ] 以外に保存されている場合は、保存されているフォルダをクリックしてください。

2 一覧から返信したいメールをクリックする

- 3 ツールバーの [返信] ボタン () をクリックする
メールの作成画面が表示されます。
[宛先] にはメールをくれた相手のアドレスが自動的に表示されます①。
[件名] には元のタイトルに「Re:」がついて表示されます②。
本文の欄には、元のメールの本文が自動的にコピーされています③。

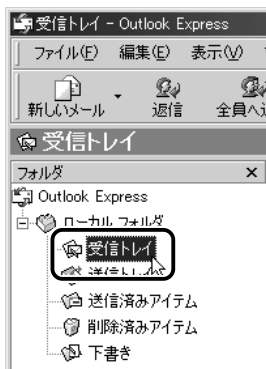


-  ● [全員へ返信] ボタン () をクリックすると、受信メールの宛先やCCに含まれているアドレスすべてが、それぞれ [宛先] と [CC] に入力されます。
- 「Re:」は「Response: 返答、返事」の略です。

4 メール本文を入力する

転送する

1 [フォルダ] の [受信トレイ] をクリックする




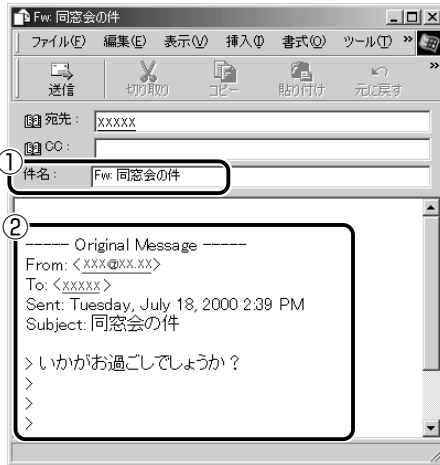
右側に受信メールの一覧が表示されます。



- メールの整理などを行い、目的のメールが [受信トレイ] 以外に保存されている場合は、保存されているフォルダをクリックしてください。

2 一覧から転送したいメールをクリックする

- 3 ツールバーの「転送」ボタン () をクリックする
メールの作成画面が表示されます。
[件名] には元のタイトルに「Fw:」がついて表示されます①。
本文の欄には、元のメールの本文が自動的にコピーされています②。




 ●「Fw:」は「Forward: 転送する」の略です。


- 4 [宛先] を入力する
- 5 メール本文を入力する

7 メールを削除する

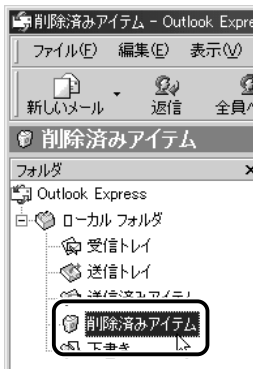
受信したメールやすでに送信したメールは削除しないと増えていきます。不要なメールは早めに削除するようにしましょう。

- 1 [フォルダ] で削除したいメールが保存されている場所をクリックする
一覧が表示されます。
- 2 一覧から削除したいメールをクリックする

- 3 ツールバーの「削除」ボタン () をクリックする
 選択したメールが一覧からなくなります。このとき、まだメールは削除されていません。「削除済みアイテム」に移動しています。

-  ● 送信したメールも受信したメールも最初に削除したときは「削除済みアイテム」に移動します。

- 4 「フォルダ」の「削除済みアイテム」をクリックする
 削除したメールの一覧が表示されます。



間違えて削除してしまったメールは、ドラッグアンドドロップすると元の場所へ戻すことができます。

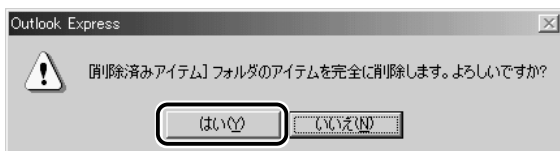


- 5 [削除済みアイテム] を右クリックし①、表示されたメニューから [[削除済みアイテム] フォルダを空にする] をクリックする②



確認のメッセージが表示されます。
ここで削除したメールはもう見ることはできません。削除する前によく確認してください。


- 6 [はい] ボタンをクリックする



[削除済みアイテム] にあるメールがすべて削除されます。

8 メールを整理する

受信したメールは [受信トレイ] に保存されます。Outlook Express では、[受信トレイ] の他にフォルダを作り、メールの相手や内容によって分類することができます。また、不要なメールは削除するなど、[受信トレイ] を常に整理しておく、あとでメールを探すときに便利です。

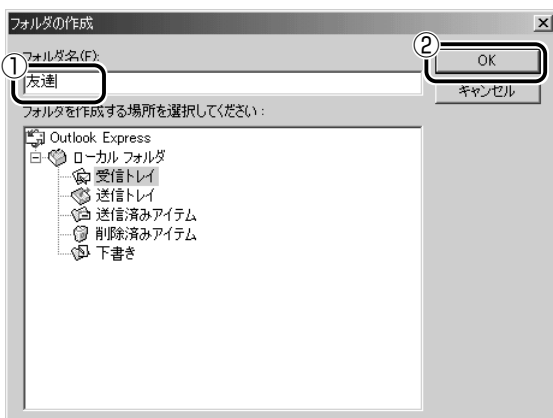
-  ● 標準設定では、受信したメールは [受信トレイ] に保存されます。設定を変更している場合は、設定先のフォルダに保存されます。

メールを分類する

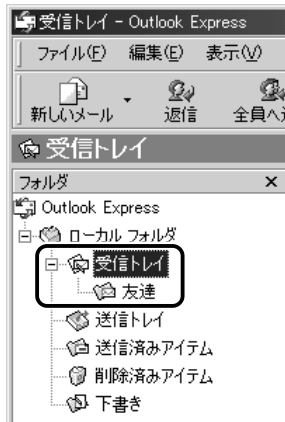
- 1 [フォルダ] の [受信トレイ] を右クリックし①、表示されたメニューから [フォルダの作成] をクリックする②



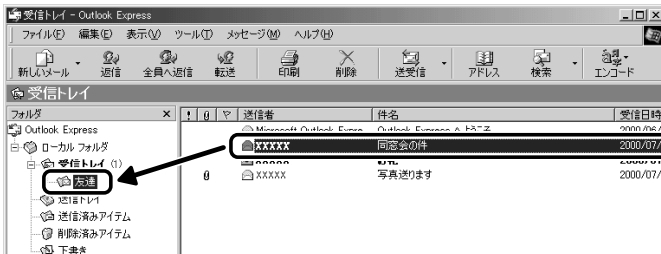
- 2 フォルダ名を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②
ここでは「友達」と入力します。



[受信トレイ] に、新しくフォルダが作成されます。



3 移動したいメールを、作成したフォルダにドラッグアンドドロップする



選択したメールが新しいフォルダに移動します。
 複数のメールを指定するときは、(Ctrl)キーを押しながらクリックします。連続してメールを指定するときは、(Shift)キーを押しながらクリックします。

4 作成したフォルダをクリックする

フォルダ内のメールの一覧が表示されますので、移動したメールがあるか確認してください。



9 アドレス帳を使う

よくメールをやり取りする相手のメールアドレスは、「アドレス帳（住所録）」に登録しておく便利です。

「アドレス帳」は、メールアドレス以外の情報も管理できるようになっていますが、ここではメールで利用する機能について紹介します。その他の詳細については、『Outlook Express のヘルプ』をご覧ください。


メールをくれた相手をアドレス帳に登録する

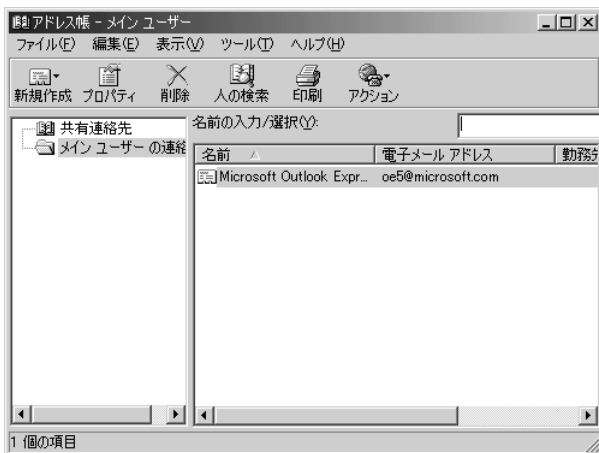
- 1 一覧から登録したいアドレスのメールを右クリックし①、表示されたメニューから [送信者をアドレス帳に追加する] をクリックする②




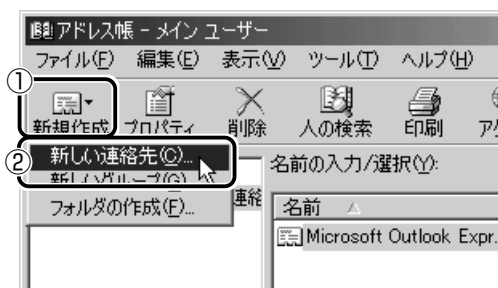
[アドレス帳] に登録されます。

新しいアドレスを登録する

- 1 ツールバーの [アドレス] ボタン () をクリックする
[アドレス帳] 画面が表示されます。



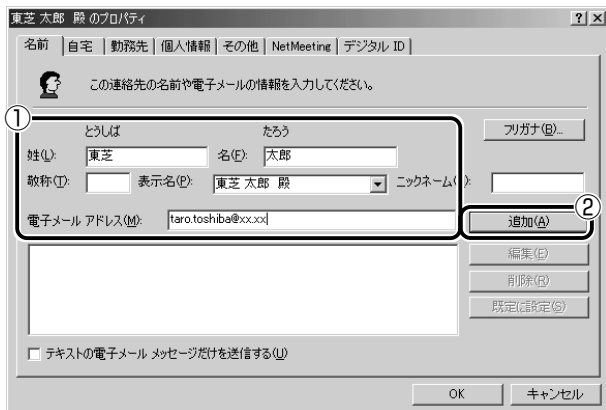
- 2 ツールバーの [新規作成] ボタン () をクリックし
①、表示されたメニューから [新しい連絡先] をクリック
する②



[のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [名前] タブで [姓] [名] [表示名] [電子メールアドレス] を入力し①、[追加] ボタンをクリックする②

- メモ**
- 電子メールアドレスは、半角英数字で入力してください。
 - [表示名] に入力した文字は、メールを受け取る相手にもそのまま表示されます。「様」「殿」といった敬称は、この [表示名] に追加することをおすすめします。




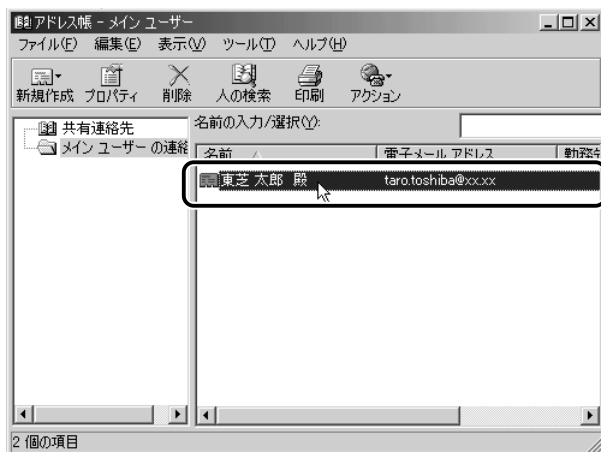
入力したメールアドレスは「標準の電子メール」として追加されます。

4 プロパティ画面で [OK] ボタンをクリックする アドレス帳に追加されました。



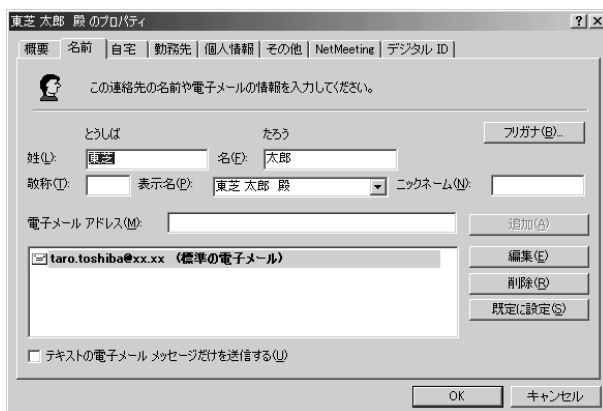
アドレス帳を修正する

- 1 ツールバーの [アドレス] ボタン () をクリックする
- 2 修正したい名前をダブルクリックする



[××××のプロパティ] 画面が表示されます。

- 3 [名前] タブで編集したい内容を変更する





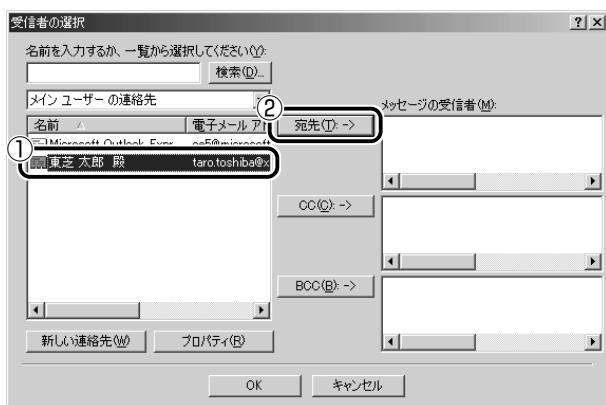
電子メールアドレスを編集する場合は、[編集] ボタンをクリックします。
「電子メールアドレス」が反転表示されたらアドレスを修正してください。



- 4 修正が終わったら、[OK] ボタンをクリックする
[アドレス帳] 画面に戻ります。

アドレス帳を使って宛先を入力する

- 1 ツールバーの [新しいメール] ボタン () をクリックする
[メッセージの作成] 画面が表示されます。
- 2 [宛先] ボタン ( 宛先) をクリックする
- 3 送信したい相手をクリックし①、[宛先] ボタンをクリックする②



[メッセージの受信者] に選択した名前が入ります。



同じメールを複数の相手に送る場合は、この操作を繰り返し行い、[宛先] に追加してください。

- メモ** ● 「写し」として送る場合は、[宛先] ボタンの代わりに、[CC] または [BCC] ボタンをクリックします。「CC」は Carbon Copy の略で、文書の宛先以外の人にメッセージを送信する際に利用します。「BCC」は Blind Carbon Copy の略で、「CC」と同様の役割です。「宛先」、「CC」で指定した場合は、メールが誰に送信されたのか、送信相手全員にわかりませんが、「BCC」で指定した場合は、他の送信相手にはわかりません。送信したことを他の人に知られることなく、メッセージを読んでもらいたい相手がいるときに利用します。

4 [OK] ボタンをクリックする

[メッセージの作成] 画面に戻ります。

メールの宛先に、登録された表示名が入力されています。




5 メールの件名、本文を入力し、メールを作成する

10 知っておくと便利なこと

メールで使える文字

メッセージ作成中にパソコンの画面上で読める文字でも、メールで送ったときに相手のパソコンの画面では正しく表示されず、「文字化け」する文字があります。メッセージの本文や件名で使用する文字には気をつけましょう。

使用できる文字	半角英数字、記号 全角の漢字、ひらがな、カタカナ キーボードに表示されている記号（全角）
使用しないほうがよい文字	半角カタカナ 丸付き数字（①、②、③ など） ローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ など） 罫線記号（ㄥ、ㄗ、ㄣ など） 音符記号（♪、♭ など） 論理記号（∩、∪、≡ など） 特殊文字（㊤、(株)、cm など） 旧字体、外字など

-  ● 相手のパソコンが日本語環境（AT 互換機）以外のコンピュータを使っている場合、全角文字が文字化けしてしまうことがあります。

署名を入れる

メッセージの最後に、自分の名前やメールアドレスなど、差出人情報を入れることもエチケットのひとつです。次の手順で、あらかじめ作成しておく便利です。

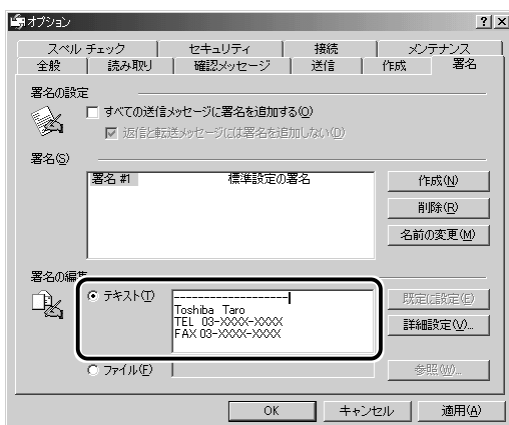
- 1 メニューバーの [ツール] をクリックし①、表示されたメニューから [オプション] をクリックする②



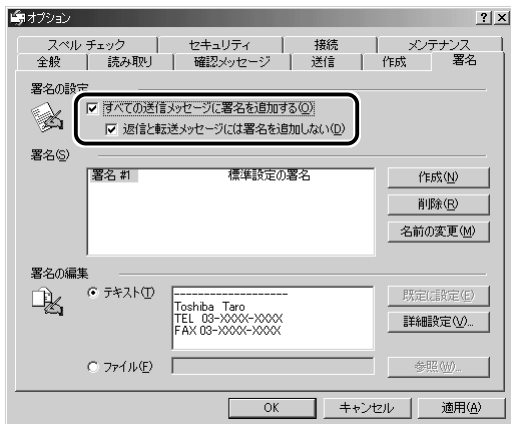
2 [署名] タブで [作成] ボタンをクリックする




3 [署名の編集] に差出人情報として入れたい内容を入力する



- 4 [すべての送信メッセージに署名を追加する] をチェックする
返信や転送するメールにも署名を追加する場合は、[返信と転送メッセージには署名を追加しない] のチェックをはずしてください。



- 5 [OK] ボタンをクリックする

- 6 ツールバーの [新しいメール] ボタン () をクリックする

メール作成画面に署名が挿入されています。



メールにファイルを添付する

画像や文書などのデータを送るときは、メールにファイルとして添付します。

- 1 メールを作成する
- 2 メニューバーの [挿入] をクリックし①、表示されたメニューから [添付ファイル] をクリックする②



- 3 添付したいファイルを選択し①、[添付] ボタンをクリックする②
ここでは [My Pictures] に保存されている「冰山」というファイルを選択します。



[メッセージの作成] 画面に戻ります。

[件名] の下に、添付したファイルの名称が表示された [添付] が追加されます。



添付したいファイルがいくつかある場合は、手順2と3を繰り返し行なってください。



- 受信側のパソコンに、添付したファイルを開くためのアプリケーションがセットアップされている必要があります。
- メールに添付するファイルは、できるだけファイルサイズを小さくしてください。サイズが大きいと、送信に時間がかかったり、エラーが発生することがあります。また、プロバイダによって扱えるメールのファイルサイズが異なりますので、サイズの大きいファイルは送信できない場合があります。複数のファイルを添付する場合は、ファイルサイズの合計に注意してください。

4 メールを送信する

メールに添付されたファイルを開く

■ ファイルを開くときの注意

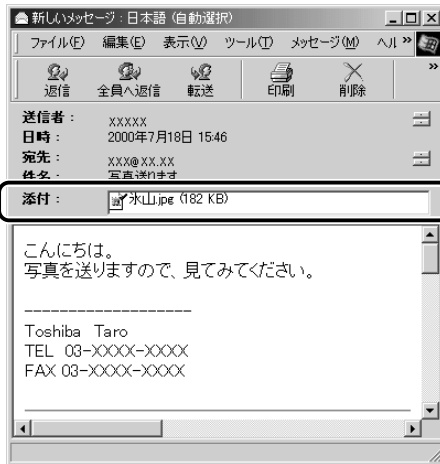
コンピュータウイルスが添付ファイルで送られてくることがあります。知らない差出人や、内容についての安全性が確認できない添付ファイルは、コンピュータウイルスに感染している場合があります。ウイルスのチェックを行ってからファイルを開くことをおすすめします。

■ ファイルを開く

添付ファイルを開くには、添付ファイルに対応したアプリケーションがインストールされている必要があります。

1 メールを開く

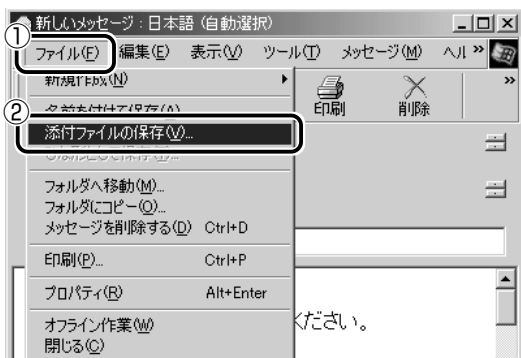
受信メールを開いたとき、[件名]の下に[添付]が表示されている場合は、ファイルが添付されています。また、メール一覧では[送信者]の横に[添付ファイル]アイコン(📎)が表示されています。



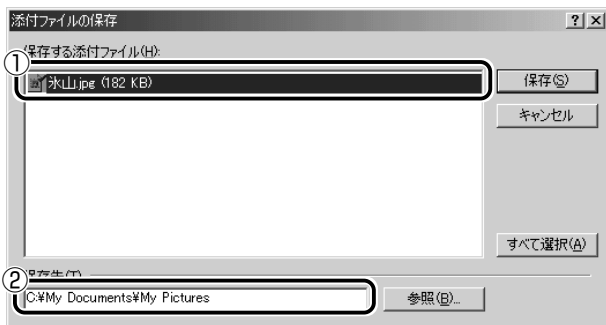
ファイル名をダブルクリックして添付ファイルを開くこともできますが、この場合ファイルの種類によっては、開くときに警告のメッセージが表示されます。添付ファイルにはウイルスが含まれている場合があるためです。

ここでは、いったんファイルを保存してから開く方法を説明します。

- 2 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【添付ファイルの保存】をクリックする②



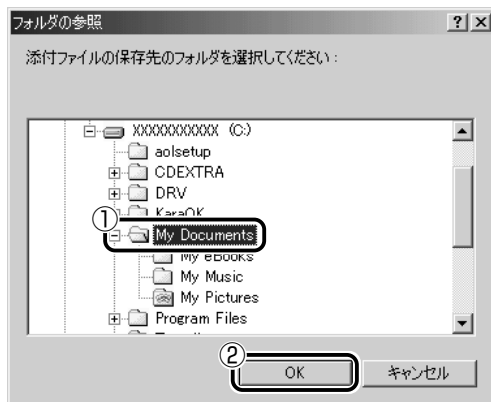
- 3 保存する添付ファイル①と、【保存先】②を選択する



表示された保存先と別のフォルダに保存する場合は、【参照】ボタンをクリックしてください。

保存先のフォルダを選択し①、[OK] ボタンをクリックしてください②。

ここでは [My Documents] フォルダに保存します。



4 [保存] ボタンをクリックする

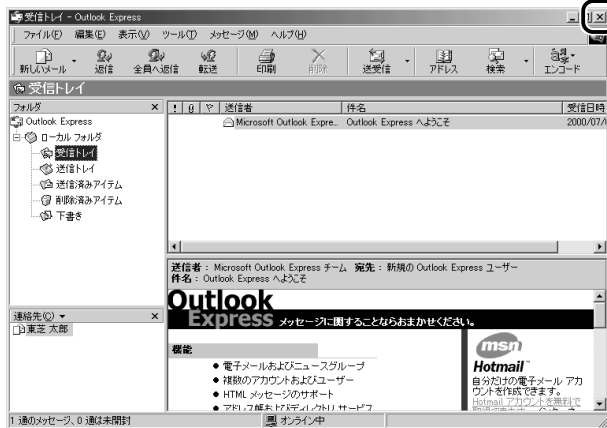
ファイルが保存されました。

安全性が確認できないファイルは、開く前にウイルスチェックをしてください。

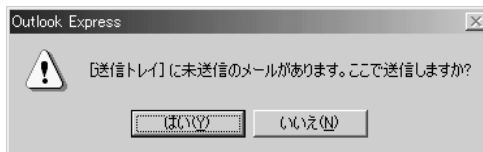
5 保存先フォルダを開き、フォルダをダブルクリックする


11 終了する

1 Outlook Express 画面の [閉じる] ボタン () をクリックする



送信トレイに送信していないメールがある場合、送信を確認するメッセージが表示されます。



送信してから終了する場合は、[はい] ボタン、送信しないで終了する場合は [いいえ] ボタンをクリックしてください。画面を閉じたら、インターネット接続が終了しているか確認してください。タスクバーの [接続中] アイコン () が消えれば、接続は終了しています。

4章 アプリケーション について

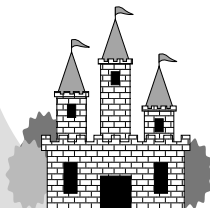
Libretto クイックスタートでやりたいことを探そう! ...	106
1 アプリケーションのヘルプを開く	108
2 アプリケーションの追加と削除	110

Librettoクイックスタートで、

スタートをクリック。 **Librettoクイックスタート** を立ち上げると→
やりたいこと別に関連したアプリケーションが紹介されます。

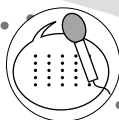
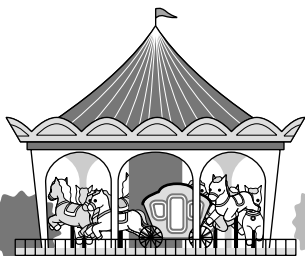
インターネットを楽しむ

- ・ 簡単インターネット
- ・ Internet Explorer
- ・ インターネット翻訳 英日
- ・ インターネット翻訳 日英
- ・ 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ



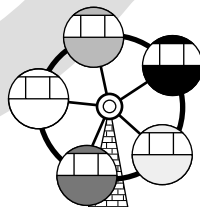
メールを使う

- ・ Outlook Express
- ・ PostPet for Windows



音声

- ・ LaLaVoice

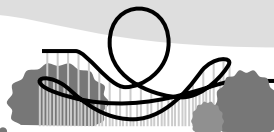
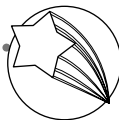


やりたいことを探そう！



便利なソフト

- ・ 駅すばあと
- ・ プロアトラス2001
- ・ Acrobat Reader
- ・ Fn-esse



エンターテイメント

- ・ KaraOK!



パソコンの設定

- ・ PC診断ツール
- ・ 東芝HWセットアップ
- ・ 東芝省電力

音楽を楽しむ

- ・ Windows Media Player



1

アプリケーションのヘルプを開く

アプリケーションの操作方法や、アプリケーションでできることを調べる場合は、ヘルプを使います。アプリケーションのヘルプには、いくつかの種類があり、それぞれ起動方法が異なります。

[ヘルプ] メニューから起動する

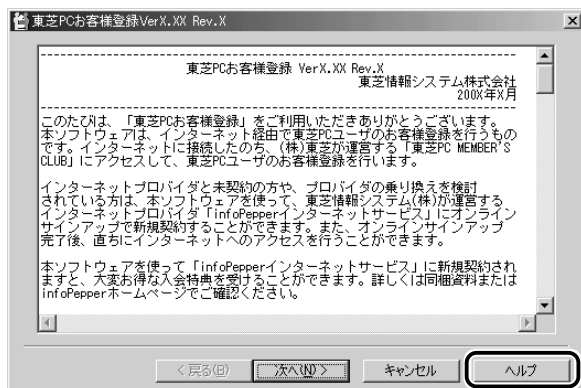
1 メニューバーから [ヘルプ] - [目次] をクリックする



(表示例)

[ヘルプ] ボタンをクリックする

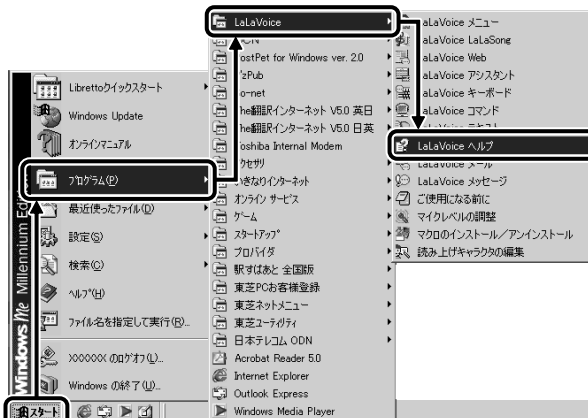
1 画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする



(表示例)

[スタート] メニューから起動する

- 1 [スタート] → [プログラム] → アプリケーション名 → アプリケーションのヘルプをクリックする



(表示例)

? をクリックする

- 1 画面右上の ? をクリックする
ポインタが ? に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
説明文がポップアップで表示されます。

2

アプリケーションの追加と削除

1 インストールとは？

インストールとは、必要なファイルなどをお使いのパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規にご購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、ご購入時にすでにインストール済みであることをプレインストール、アプリケーションを削除することをアンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーション&ドライバCD-ROMから、再インストールして使用することができます。



再インストールについて

➡『困ったときは 3章 6 アプリケーションを再インストールする』

2 アプリケーションを追加する


[アプリケーションの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [アプリケーションの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。



- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[アプリケーションの追加と削除] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [インストールと削除] タブで[インストール] ボタンをクリックする





(表示例)


この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よくご確認のうえ行なってください。

-  ● アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。
-  ● アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[アプリケーションの追加と削除] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [インストールと削除] タブで、アプリケーション一覧から削除したいアプリケーションをクリックする

3 [追加と削除] ボタンをクリックする

表示されるメッセージに従って操作してください。



(表示例)

5章 モバイルしよう

- 1 モバイルする前に 116
- 2 バッテリーを充電する 118
- 3 省電力ユーティリティを使う 126
- 4 パスワードセキュリティ機能を使う 133
- 5 パソコンの使用を中断する
／簡単に電源を切る 140
- 6 外出先でインターネットをする 146

1


モバイルする前に

Librettoでモバイルするためには、あらかじめ準備しておくことや知っておいたほうがよいことがあります。

この章では、より快適にモバイルするための方法を紹介します。

■バッテリーを充電する

モバイルで使用するためには、あらかじめバッテリーの充電を完了しておく必要があります。

 詳細について ⇨ 「本章 2 バッテリーを充電する」


■省電力ユーティリティを使う

バッテリーで使用しているときに、消費電力を減らす設定を行うことで、より長い時間モバイルすることができます。設定は、「省電力ユーティリティ」で行います。

 詳細について ⇨ 「本章 3 省電力ユーティリティを使う」


■パスワードセキュリティ機能を使う

モバイルで使用しているときは、特に第三者にパソコンを操作されないように注意する必要があります。本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定することができます。

 詳細について ⇨ 「本章 4 パスワードセキュリティ機能を使う」


■パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る

モバイルで使用しているときは、作業を一時的に中断することがよくあります。そのたびに電源を切ったり、入れたりするのではなく、「スタンバイ」や「休止状態」を使うと、中断時の作業がすばやく再現されるので便利です。

 詳細について ⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

■外出先でインターネットをする

モバイルでインターネットや電子メールを使用することができます。ここでは、モバイルでインターネットに接続する方法や、外出先の環境にあわせて設定を変更する方法を紹介します。

 詳細について ⇨ 「本章 6 外出先でインターネットをする」

2

バッテリーを充電する

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。



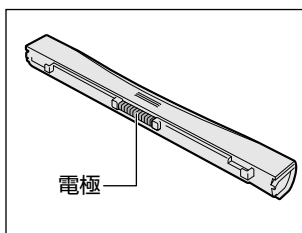
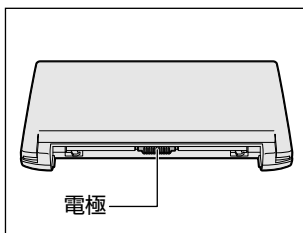
『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

⚠ 警告

- ・バッテリーパックの使用時、充電中、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐ電源を切り電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてください。
- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS009、大容量バッテリーパック：PABAL005）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意


- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、全バッテリーを充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

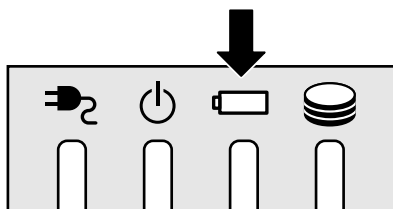



1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LEDで確認する


ACアダプタを使用している場合、Battery  LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery  LEDは次の状態を示しています。

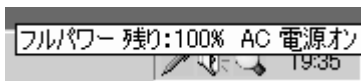
緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・バッテリーが接続されていない・ACアダプタが接続されていない・バッテリー異常

タスクバーの [省電力] アイコンで確認する

タスクバーの [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

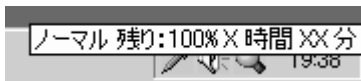
このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。

- ACアダプタを接続している場合




(表示例)

- バッテリ駆動の場合




(表示例)

- メモ**
- タスクバーに表示される「省電力」アイコン () の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
 - 東芝省電力ユーティリティ ([コントロールパネル] → [東芝省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- 警告音 (ビーブ音) が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

- お願い**
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

■ 充電完了までの時間

状態	時計用バッテリー
電源ON	8時間以上





- 時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

2 バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法


1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。



- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。
(標準バッテリーパックの場合)

状態	充電時間
電源ON	約3時間以上
電源OFF	約3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

【充電完了の状態で使用した場合】

省電力モード	動作時間
ロングライフ	約3時間30分


(注) 当社使用のプログラムで計測

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

【フル充電した状態で電源を切った場合】


パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約2週間

-  ● スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短い
ため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。


バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。


- こまめに休止状態にする

 休止状態 ⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

 ディスプレイを閉じる
⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

- 省電力モードに設定する

 省電力設定 ⇨ 「本章 3 省電力ユーティリティを使う」

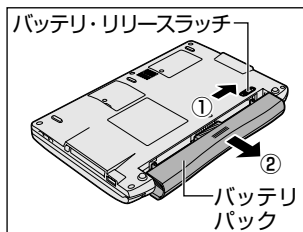
3 バッテリーパックを交換する



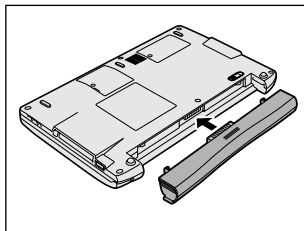
- バッテリーパックの取り付け/取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

取り付け/取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [Windows の終了] をクリックする
- 3 [終了] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②



- 7 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む




3

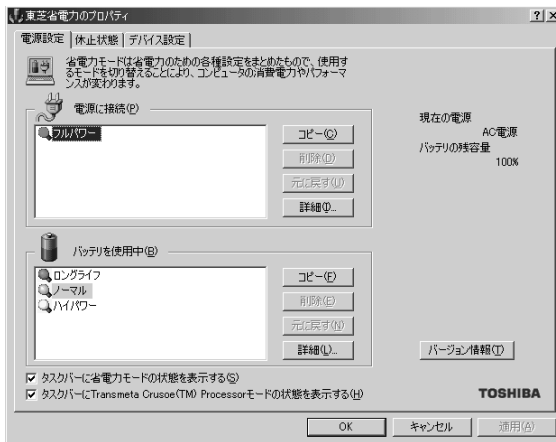
省電力ユーティリティを使う

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

起動方法

- 1 【コントロールパネル】を開き、【東芝省電力】アイコン（）をダブルクリックする

【電源設定】タブ



(表示例)

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

■ [電源に接続] [バッテリーを使用中]

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

●フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。

●ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

●ノーマル


性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。

●ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

【省電力モードの削除】

① 削除する省電力モードをクリックする

② [削除] ボタンをクリックする

[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。チェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

【タスクバーにTransmeta Crusoe (TM) Processorモードの状態を表示する】

ここをチェックする () と現在のCPU周波数 (Transmeta Crusoe™ Processor) の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

[休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



[デバイス設定] タブ

LAN を使用するかしないか、を設定します。AC アダプタを使用しているときとバッテリーを使用しているときで、それぞれ設定ができます。また、未使用状態に切り替えられたときに確認のメッセージが表示されるようにできます。



省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

■ 起動方法

- ① [電源設定] タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワー）を選択し、[詳細] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



(表示例)

■ [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

■ [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

■ [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ バッテリーが消耗したとき
- ・ 故障、修理、電池交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
- ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここをチェックする () と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイや休止状態から復活するときに Windows パスワードが要求されます。



●ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。



●休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。



●増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

■ [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

詳しい操作方法を知りたいとき (ヘルプの起動)

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、[東芝省電力のプロパティ] 画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

4

パスワードセキュリティ機能を使う

1 パスワードセキュリティ機能について

本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定できます。



・ユーザパスワード

電源を入れたときや休止状態から復帰するときに入力します。

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「****（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。

よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号（単独のキーで入力できる文字の一部）	- ^ @ [] ; : , . / （スペース）
使用できない文字	・ 全角文字（2バイト文字） ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できない（入力するときに Shift キーなどを使用する）文字 【例】 （パーチカルライン）、&（アンド）、 ~（チルダ）など ・ ¥（エン）  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。	

・スクリーンセーバーパスワード


スクリーンセーバーを解除するときに入力します。

2 ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードを設定すると、電源を入れたときや休止状態から復帰するときにパスワード入力が要求されます。

ユーザパスワードの登録/削除は、「東芝 HW セットアップ」で行います。

東芝 HW セットアップの起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝 HW セットアップ] アイコン () をダブルクリックする



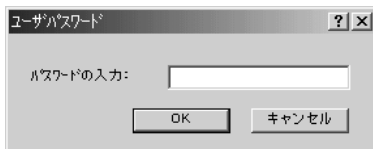
- [コントロールパネル] 画面に [東芝 HW セットアップ] アイコンが表示されていない場合は、画面左の [すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。] をクリックしてください。

ユーザパスワードの登録

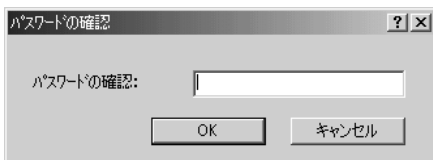
- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする



- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは大文字、小文字を区別しません。



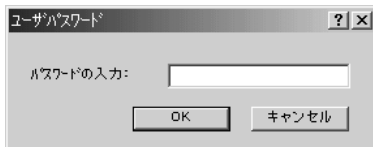
- 3 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする




- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

ユーザパスワードの削除

- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

-  ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。
この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

キーフロッピーディスクの作成

ユーザパスワードの設定後、キーフロッピーディスクを作成できます。キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

1 電源を切る

2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能状態のフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

画面に「Password =」と表示されます。

4 設定したとおりにパスワードを入力する

5 **(Tab)**キーを押す

画面に「Insert password service disk if necessary. Are you sure?(Y/N)」と表示されます。

6 **(Y)**キーを押す

画面に「Password Service Disk Type?(1:2HD, 2:2DD)」と表示されます。

7 **①**または**②**キーを押す

お使いのフロッピーディスクのタイプをご確認のうえ、キーを押してください。

画面に「Remove the password service disk, then press any key.」と表示されます。

8 何かキーを押す

Windows が起動します。



- キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

3 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると、画面に「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

- 1 設定したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す
パスワードは大文字、小文字を区別しません。



- パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

- 1 電源を入れる

画面に「Password =」と表示されます。

- 2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、作成したキーフロッピーディスクをセットする

- 3 **(Enter)**キーを押す

フロッピーディスクから読み込みがはじまり、Windows が起動します。

設定したパスワードは解除されます。



- キーフロッピーディスクを作成していなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償になります。また、そのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 スクリーンセーバーパスワード


(Fn)+(F1)キーを押すと、「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。

スクリーンセーバーを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、アクセシビリティIIの操作を行なってください。

スクリーンセーバーにパスワードを設定すると、スクリーンセーバーを解除するときにパスワードの入力が要求されます。

スクリーンセーバーのパスワードは、[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで設定します。

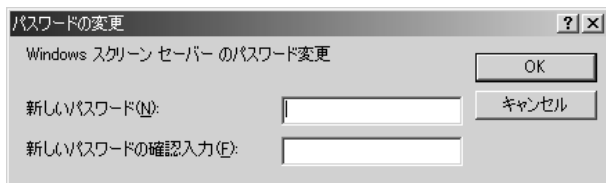
スクリーンセーバーパスワードの登録

- 1 [コントロールパネル]を開き、[画面]アイコン()をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ]をクリックする
- 2 [スクリーンセーバー]タブでスクリーンセーバーを選択する
- 3 [パスワードによる保護]をチェックし、[変更]ボタンをクリックする



(表示例)

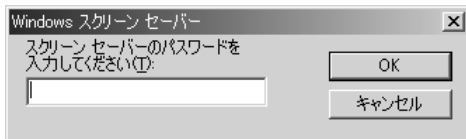
- 4 [パスワードの変更] 画面の [新しいパスワード] にパスワードを入力する



- 5 [パスワードの変更] 画面の [新しいパスワードの確認入力] にもう1度パスワードを入力する
- 6 [OK] ボタンをクリックする
- 7 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバーパスワードの入力

スクリーンセーバーの動作中に(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、アキュポイントIIの操作を行うと、パスワード入力画面が表示されます。



- 1 設定したとおりにスクリーンセーバーパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは大文字、小文字を区別します。パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

5

パソコンの使用を中断する ／簡単に電源を切る

1 スタンバイ／休止状態

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。



- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前に、データを保存することをおすすめします。

スタンバイ

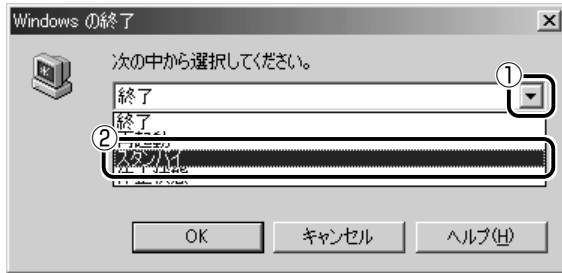
作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

1 [スタート] ①→ [Windows の終了] ②をクリックする



(表示例)

2 ▼ ボタンをクリックし①、[スタンバイ] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

4 Power ㊦ LEDがオレンジ点滅しているか確認する

[スタート] メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。

 詳細について

➔ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

 お願い

- スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

警告

- ・パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

注意

- ・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

休止状態

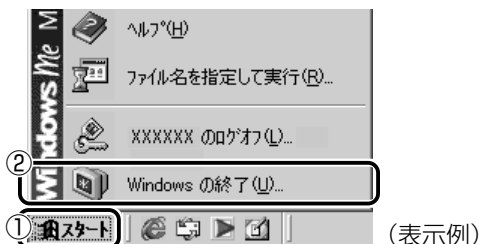
パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

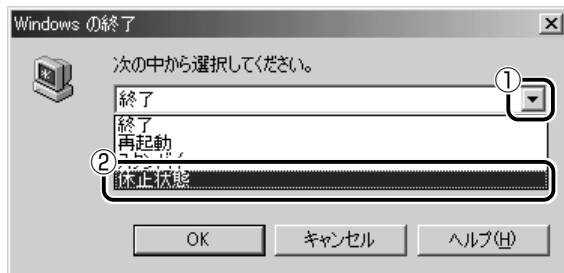
1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ① → [Windows の終了] ② をクリックする



3 ▼ ボタンをクリックし①、[休止状態] を選択する②



4 [OK] ボタンをクリックする

[スタート] メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。



- 休止状態にするときは、メモリの内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。



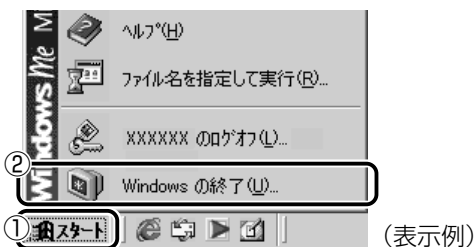
詳細について

➔ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

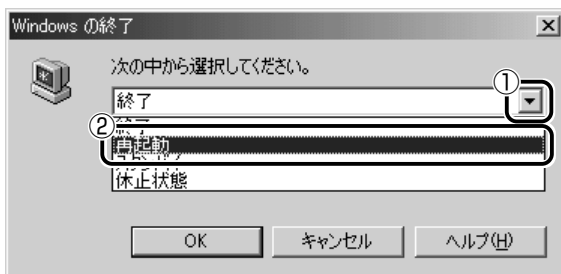
再起動

いったん Windows を終了した後、すぐにもう 1 度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

1 [スタート] ① → [Windows の終了] ② をクリックする



2 [スタート] ボタンをクリックし①、[再起動] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき


[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。


電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
- ③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

 ● (Fn)+(F3) キーを使用して、電源スイッチを押したときの動作を切り換えることができます。

 詳細について ⇨ 「1章 8 キーボード」

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じると電源を切る、またはパソコンの使用を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。


休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (☑)
- ③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

 ● 手順1の③で [何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

2 ディ스플레이を閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

6

外出先でインターネットをする

外出先でもインターネットや電子メールを利用することができます。
外出先でインターネットに接続するには、次のような方法があります。

■ PHS、携帯電話を使う

PHS、携帯電話を接続してインターネットに接続できます。
LibrettoにPHS、携帯電話を接続する場合は、別途、接続機器（別売り）が必要です。
接続については詳しくは、『PHS、携帯電話に付属の説明書』や『接続機器に付属の説明書』をご覧ください。

■ モジュージャック付きの公衆電話

公衆電話の中には、モジュージャックが用意されているものがあります。
「アナログ」と書いてあるモジュージャックにモジュラーケーブルを接続します。


■ インターネット接続の設備が整っている場所

ホテルのビジネスルームなどでは、モジュラーケーブルを接続するための電話回線が用意されている場合があります。

ここでは、モバイルでインターネットや電子メールを使用する場合に、自宅やオフィスなどで普段利用している設定を変更する方法について説明します。

外出先の環境について、次の点を確認してください。

- ・ 外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）
- ・ 外出先の電話回線の市外局番

 ● ここでは、普段は自宅やオフィスなどで、インターネットやメールをモデム接続で使用している場合を、「現在の設定」とします。

外出先のダイヤル方法を確認する

最初に、外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）を確認します。

現在の設定と同じ場合は、特に設定を変更する必要はありません。

現在の設定と異なる場合は、「設定の変更」を行います。

外出先の市外局番を確認する


次に、外出先の電話回線の市外局番を確認します。

現在の設定と同じ市外局番の場合は、特に設定を変更する必要はありません。

現在の設定と異なる市外局番の場合は、「設定の変更」を行います。

現在の設定のままインターネットに接続することもできますが、プロバイダのアクセスポイントまで電話料金がかかりますので、外出先により近いアクセスポイントに変更することをおすすめします。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

設定の変更

1 [コントロールパネル] を開き、[テレフォニー] アイコン () をダブルクリックする
[ダイヤルのプロパティ] 画面が表示されます。

2 発信元の変更する

お使いになる電話回線について、次の点を確認してください。

●登録名

外出先の設定を新たに登録したい場合は [新規] ボタンをクリックしてください。

●発信元の市外局番

●外線発信番号

●ダイヤル方法

3 [OK] ボタンをクリックする

次に、接続先の電話番号の設定を行います。

1 [スタート] → [設定] → [ダイヤルアップネットワーク] をクリックする
[ダイヤルアップネットワーク] 画面が表示されます。

2 接続に使用するダイヤルアップアイコンを右クリックし、表示されるメニューの [プロパティ] をクリックする
[×× (接続先)] 画面が表示されます。

3 [全般] タブで [電話番号] 欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する

4 [×× (接続先)] 画面で [OK] ボタンをクリックする

外出先での使用が終了した後は、設定を元に戻しておく必要があります。「普段利用する設定」と「外出先の設定」を、どちらも保存しておき、必要に応じて使い分けると便利です。

6章 Librettoを拡張する

- 1 周辺機器を接続する前に 150
- 2 PCカードを接続する 154
- 3 USB対応機器を接続する 157
- 4 マイクロホンに接続する 159
- 5 ヘッドホンに接続する 160
- 6 CRTディスプレイに接続する 161
- 7 LANへ接続する 166
- 8 メモリを増設する 171

1

周辺機器を接続する前に

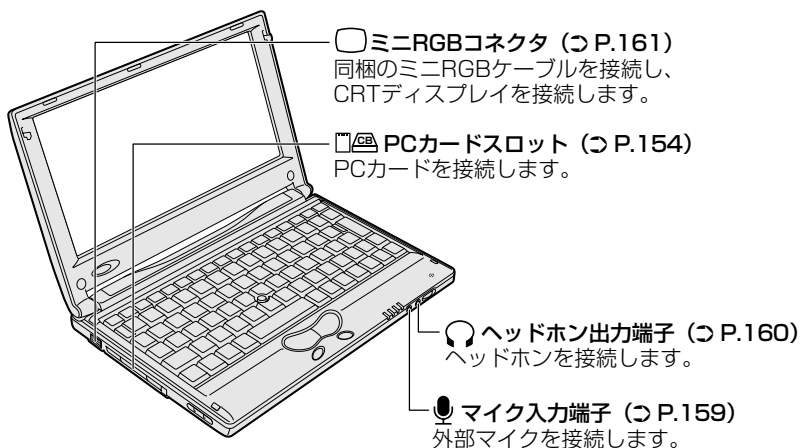
周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

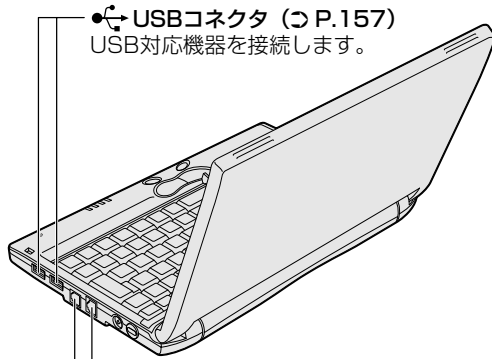
- プリンタ
- PCカード
- スキャナ
- マウス
- 増設メモリ
- デジタルカメラ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵済み）
- モデム（本製品では内蔵済み）
- LAN（本製品では内蔵済み）
- フロッピーディスクドライブ
- CD-ROMドライブ


1 本製品に接続できる周辺機器


本製品には次のような周辺機器を接続できます。周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。


- 用語** ● **インタフェース** ● 機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のこと。

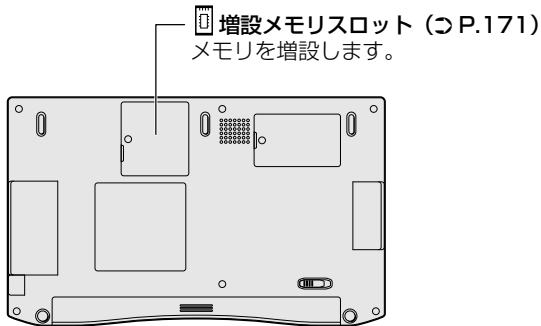





 **USBコネクタ (▷ P.157)**
USB対応機器を接続します。

 **LANコネクタ (▷ P.166)**
ネットワークケーブルを接続します。

 **モジュラージャック**
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、モデム機能を使用します。
▷ 『まずはこれから インターネットに接続しよう
パソコンと電話回線を接続する』



 **増設メモリスロット (▷ P.171)**
メモリを増設します。

2 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windows がドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



(表示例)

■ プラグアンドプレイに対応していない場合

[新しいハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書をご覧になり、ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。



● [新しいハードウェアの追加ウィザード] の起動方法

[コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加] をダブルクリック

3 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- **ホットインサージョン** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2

PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ピーシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PC カードには、次のようなものがあげられます。

- ISDN カード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSI カード
- フラッシュメモ리카ード
- 無線 LAN カード など

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いの PC カードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。



- PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。

- ・ 通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
- ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- ・PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

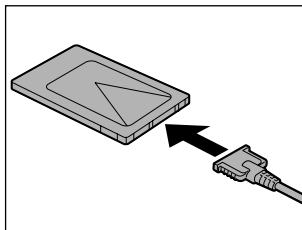


- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

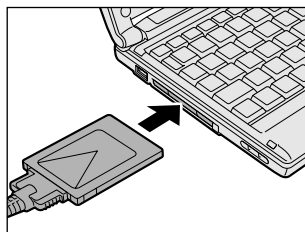
取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れることがあります。


カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。



カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

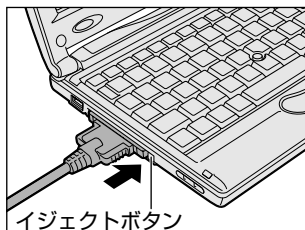
- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [×××× (取りはずす PC カード) の停止] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする



(表示例)

2 PC カードスロットのイジェクトボタンを押す

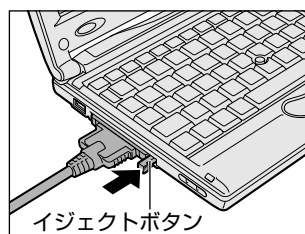
イジェクトボタンが出てきます。



3 もう 1 度 PC カードスロットのイジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押し続けてください。

カードが少し出てきます。



4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

3

USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB コネクタに接続します。

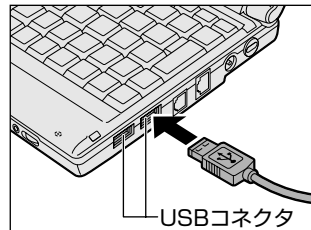
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む
この手順が必要ない機器もあります。



参照 三 USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』



- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷される USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直るか、パソコンを再起動してください。



- USB コネクタの数が足りない場合は、市販されている USB ハブを使用してください。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4

マイクロホンを接続する

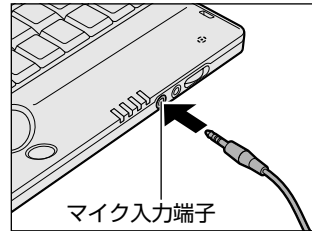
マイク入力端子に接続します。

マイクのプラグは、直径 3.5mm ϕ ステレオミニジャック、または三極のミニジャックタイプをお使いください。

接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



5

ヘッドホンを接続する

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。



● マスタ音量の起動方法

タスクバーの「音量」アイコン () をダブルクリック

⚠ 注意

・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。

耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



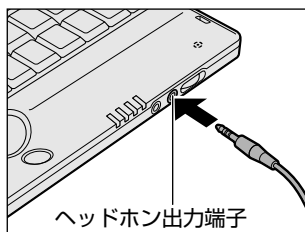
● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



6

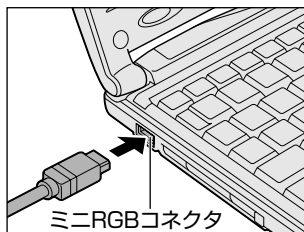
CRT ディスプレイを接続する

同梱のミニ RGB ケーブルを使い、CRT ディスプレイを接続します。CRT ディスプレイは、パソコンの電源を切ってから接続してください。

接続


- 1 ミニ RGB ケーブルのプラグをミニ RGB コネクタに差し込む

取りはずすときは、ミニ RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



- 2 CRT ディスプレイのケーブルのプラグをミニ RGB ケーブルの RGB コネクタに差し込む

CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れます。

- 3 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする

または、

デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 4 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする

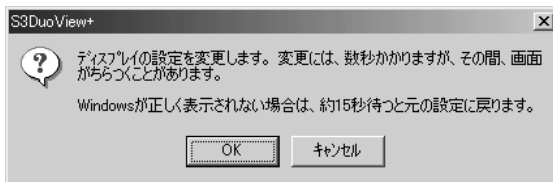
[S3 Inc. Savage/IX w/MV のプロパティ] 画面が表示されます。

5 [S3DuoView+] タブの [表示デバイス選択] で [CRT] を選択する



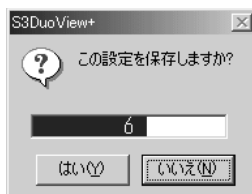
6 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



7 [OK] ボタンをクリックする

次の画面がCRT ディスプレイに表示されます。



8 [はい] ボタンをクリックする

9 [OK] ボタンをクリックする

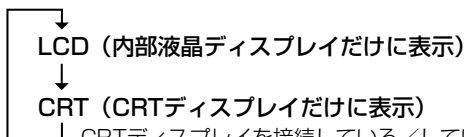
CRT ディスプレイまたは内部液晶ディスプレイだけに表示する

次の表示方法の場合は、設定は必要ありません。

- CRT ディスプレイだけに表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

■ (Fn) + (F5) キーを使う

(Fn) キーを押したまま、(F5) キーを押すたびに切り替わります。



CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、この状態に切り替わります。CRTディスプレイが接続されていない場合も、内部液晶ディスプレイには何も表示されませんので、ご注意ください。


- メモ**
- 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイを同時に表示することはできません。
 - CRTディスプレイに表示した状態でパソコンの電源を切り、再びパソコンの電源を入れた場合、画面は内部液晶ディスプレイに表示されます。
(Fn) + (F5) キーで切り替えてください。

- お願い**
- 次のようなときには、表示方法を切り替えしないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやりとりが完了するまで待ってください。
 - ・通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに表示する

CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイの両方の画面で 1 つのデスクトップを表示できます (マルチディスプレイ)。

次の手順で設定できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブで、「モニタ 2」をクリックする



次の画面が表示されます。



- 3 [はい] ボタンをクリックする
- 4 [OK] ボタンをクリックする

■ 設定を解除する方法

- 1 [画面のプロパティ] の [設定] タブで、「モニタ 2」を右クリックする
- 2 使用可能のチェックをはずす
- 3 [OK] ボタンをクリックする

表示について



- CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。



- 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイを同時に表示することはできません。
- 省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、(Shift) キーや (Ctrl) キーまたはアキュポイント II の操作により表示が復帰します。
このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります
すが、故障ではありません。
- 1280 × 600 ドットの解像度で動画ファイル (AVI、MPEG ファイルなど) をフルスクリーン再生した場合、画像の一部が表示されません。
- 1280 × 600 ドットの解像度で CRT 表示した場合、表示画面の上下に黒い帯 (非表示エリア) ができます。
- 本製品の内部液晶ディスプレイの解像度は、1280 × 600 ドットです。CRT ディスプレイに表示する場合は、1280 × 1024 ドット対応の CRT ディスプレイをお使いください。
1280 × 1024 ドットに対応していない CRT ディスプレイをお使いの場合は、CRT ディスプレイの解像度に合わせて、内部液晶ディスプレイの解像度を変更してください。
また、モニタ 2 の色数は、出荷時は「256 色」に設定されています。必要に応じて色数の設定を変更してください。



ビデオモードについて ⇨ 「付録 1-2 サポートしているビデオモード」
画面の設定の変更について ⇨ 《オンラインマニュアル》

7

LAN へ接続する

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応したLAN インタフェースが内蔵されています。本製品のLAN コネクタにLAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN コネクタをご使用になる際の注意事項を説明します。

LAN ケーブルの接続

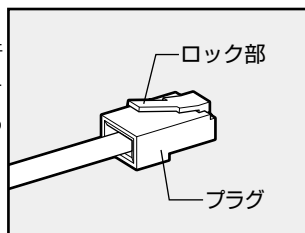
LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。



- **カテゴリ** ● ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ 1～5 まであり、数字が高いほど品質が高い。10BASE-T ではカテゴリ 3 以上、100BASE-TX ではカテゴリ 5 のケーブルが使われる。



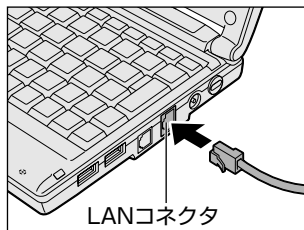
- LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグをLAN コネクタに差し込む

ロック部を手前にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、Windows の『ヘルプとサポート』をご覧ください。また会社や学校でお使いの場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Windows のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。

ご購入時は既定値が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

- ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

■ ネットワークの設定

1 [コントロールパネル] を開き、[ネットワーク] アイコン (🌐) をダブルクリックする

2 [ネットワークの設定] タブで変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。

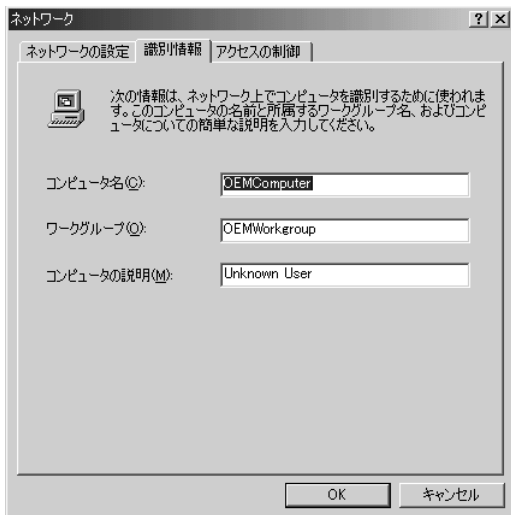


(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- クライアント 他のコンピュータに接続するための機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。
通信する複数のコンピュータ同士は、同じプロトコルを使用する必要があります。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、他のコンピュータから使えるようにします。

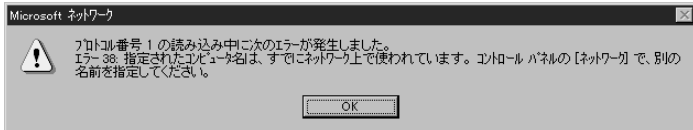
3 [識別情報] タブで、[コンピュータ名]、[ワークグループ]をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)

⚠ 注意

- ・ コンピュータ名とワークグループは必ず既定値（OEMComputer、OEMWorkgroup）の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続すると、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



4 [アクセスの制御] タブで、変更を行う



(表示例)

共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

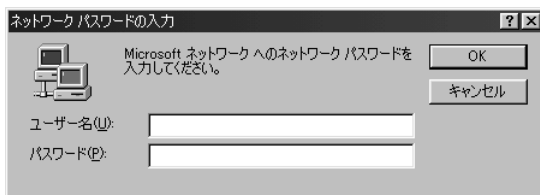
5 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

■ 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名とパスワードを入力する

ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



(表示例)

8

メモリを増設する

増設メモリスロットに 128MB までの増設メモリを取り付けることができます。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプターのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・電源を切った直後
電源を切った後 30 分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。




- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

■ 静電気について

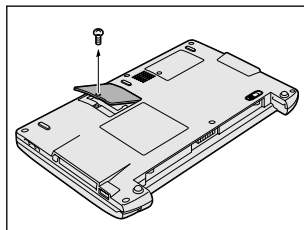
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

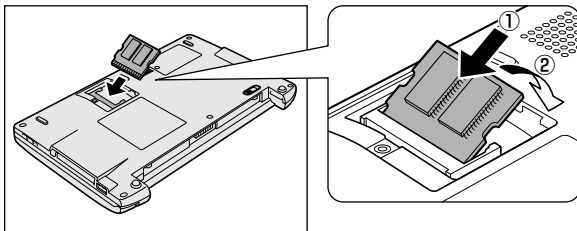
 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジをはずし、増設メモリカバーをはずす



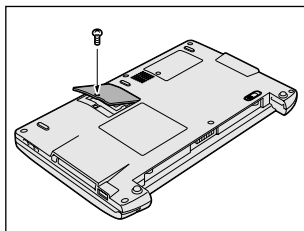
5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。




6 増設メモリカバーをはめ、手順4ではずしたネジをとめる


増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 バッテリーパックを取り付ける


 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

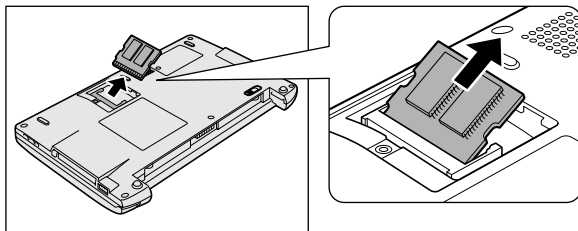
 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 - メモリ容量の確認」

取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」


- 4 増設メモリカバーのネジをはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。




- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順 4 ではずしたネジでとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 - メモリ容量の確認」

メモリ容量の確認

-  ● システムがメインメモリ領域の約 16MB 分を使用するため、「PC 診断ツール」や「システムのプロパティ」で表示されるメモリ容量は、実際の容量より少なく表示されます。

■ 「PC 診断ツール」で確認する

- ① [スタート] → [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

■ 「システムのプロパティ」で確認する

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ② [全般] タブの RAM の数値を確認する

7章 日常の取り扱いとお手入れ

1	日常の取り扱いとお手入れ.....	178
---	-------------------	-----

1

日常の取り扱いとお手入れ

⚠ 注意

- ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- ・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡ってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはほこりを拭き取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を堅くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

飲み物など液体をこぼしたときは電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずしてから、お買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

液晶ディスプレイ

■ 画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかい素材のきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

■ サイドライト用FL管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用FL管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用FL管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

アキュポイントⅡ（ポインティング装置）

アキュポイントⅡは、ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。アキュポイントキャップがすりきれたら取り換えてください。携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあるときにマウスポインタが移動する場合があります。その場合は、電波を発生する機器を離してください。

■ キャップの取り換え

予備として2個のアキュポイントキャップが同梱されています。長期間使用し、すり切れたら取り換えてください。取り換え方法は次のとおりです。

スペアのアキュポイントキャップをお買い求めになる場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

- 1 アキュポイントキャップをしっかりとつまみ、垂直に引き上げて取りはずす
- 2 新しいアキュポイントキャップを切り込みにあわせてアキュポイントⅡにはめる

データのバックアップについて


重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶装置が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていなかったために、バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- 電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
電源を切った後も、Disk  LEDが点灯中は動かさないでください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。
やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。
故障の原因になります。
- 持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- バッテリパック（リチウムイオン電池）
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパック（PABAS009）と交換してください。
- 時計用バッテリー（交換は有償です）
- アクュポイントキャップ（交換は同梱されているものを使用してください）
消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

仕様について

本製品の仕様は国内向けです。

国外で製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

■ ACアダプタの仕様

入力	AC100V～240V、0.7～0.4A、50/60Hz
出力	15V、2A

付録

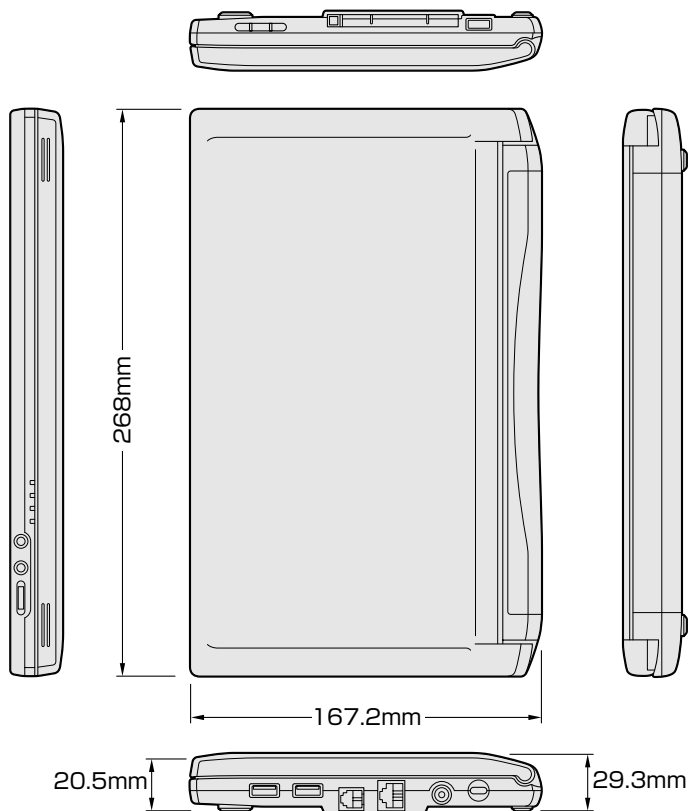
1	本製品の仕様	184
2	各インターフェースの仕様.....	191
3	技術基準適合について	194

1

本製品の仕様

1 外形寸法図

*数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。

モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

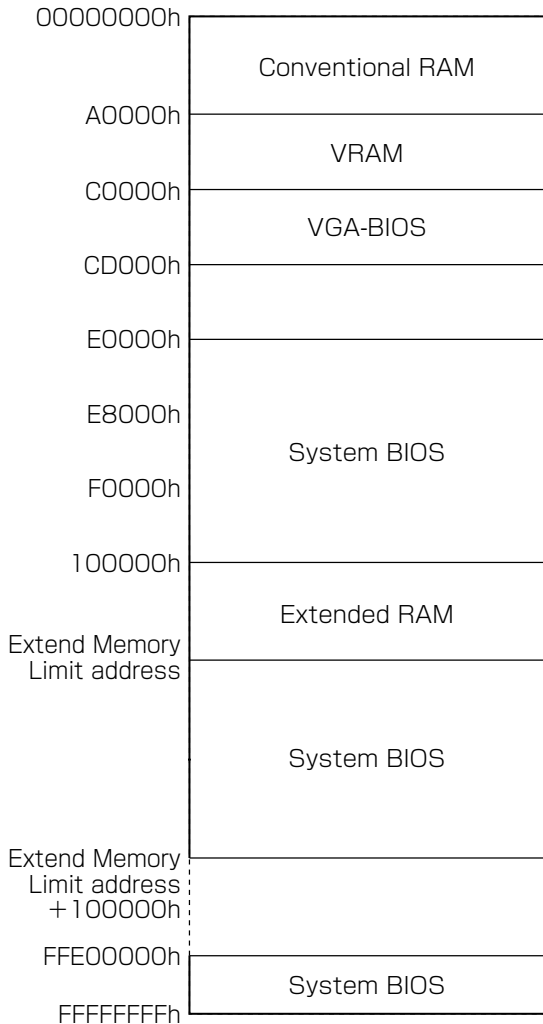
ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K*1	
—		1280 x 600ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット	—	256/256K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	256/256K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K*1	
—		1280 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット	—	64K/64K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	64K/64K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M*1	60/75
—		1280 x 600ドット	—	16M/16M	60
—		1280 x 1024ドット	—	16M/16M*1	

*1：LCDで表示する場合、実際の画面（1280 × 600）内に、仮想スクリーン表示します。

3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスキレジスタ

	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	NDP
100h	モデム
110h	なし
178h	
1F0h	
1F8h	HDC
200h	なし
220h	
240h	
260h	
278h	なし
280h	
2A0h	
2E8h	
2F0h	
2F8h	
300h	
376h	
378h	
380h	
3B0h	VGA
3BCh	
3C0h	VGA
3E0h	東芝PCカードインタフェースコントローラ
3E8h	
3F0h	
3F6h	HDC
400h	
480h	DMA Hiページレジスタ
4A0h	
530h	
538h	
604h	
60Ch	
E80h	
E88h	
F40h	
F48h	

5 DMA 使用リソース

DMA		DMAC
0	なし	1
1	なし	
2	なし	
3	なし	
4	Cascade for CTRL1	2
5	なし	
6	なし	
7	なし	

6 IRQ 使用リソース

IRQ		PIC
0	タイマ (PIT)	#1
1	キーボード (KBC)	
2	IRQ8~15 PIC #2入力	
3	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用*	
4	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用*	
5	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用*	
6	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用*	
7	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用*	
8	RTC	#2
9	ACPI	
10	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用*	
11	VGAコントローラ	
12	マウス	
13	NDP	
14	HDC	
15	空き	

*各デバイスは、1つのIRQを使用します。

2

各インタフェースの仕様

1 RGB インタフェース (ミニ RGB ケーブル)

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図

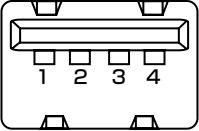
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

2 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

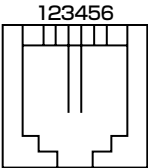
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3 モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図



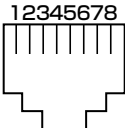
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3

技術基準適合について

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照  省電力設定について ⇨ 「5章 3 省電力ユーティリティを使う」

FCC information

Product name : Libretto L2/060TN

Model number : PAL2060TN

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by Toshiba is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by Toshiba or parties authorized by Toshiba could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : Toshiba America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA



EU Declaration of Conformity
EU Übereinstimmungserklärung
Déclaration de conformité UE
Declaración de conformidad de la UE
Dichiarazione di conformità UE
EU Försäkran om överensstämmelse

Toshiba declares, that the product:

PAL2060TN** conforms to the following Standards:

Toshiba erklärt, daß das Produkt:

PAL2060TN** folgenden Normen entspricht:

Toshiba déclare que le produit cité ci-dessous:

PAL2060TN** est conforme aux normes suivantes:

Toshiba declaran que el producto:

PAL2060TN** cumple los siguientes estándares:

Toshiba dichiara, che il prodotto:

PAL2060TN**, é conforme alle seguenti norme:

Toshiba intygar att produkten:

PAL2060TN** överensstämmer med följande normer:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC.”

Weitere Informationen: “Das Produkt entspricht den Anforderungen der Niederspannungs-Richtlinie 73/23/EG und der EMC Richtlinie 89/336/EG.”

Informations complémentaires: “Ce produit est conforme aux exigences de la directive sur les basses tensions 73/23/CEE et de la directive EMC 89/336/CEE.”

Información complementaria: “El Producto cumple los requisitos de baja tensión de la Directiva 73/23/CEE y la Directiva EMC 89/336/CEE.”

Ulteriori informazioni: “Il prodotto é conforme ai requisiti della direttiva sulla bassa tensione 73/23/EG e la direttiva EMC 89/336/EG.”

Ytterligare information: “Produkten uppfyller kraven enligt lägsäpänningsdirektiver 73/23/EEC och EMC-direktiv 89/336/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is Toshiba Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号
A00-0940JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001年8月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。



詳細について ⇨ 《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to conform with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by Toshiba Corporation or an authorized representative of Toshiba Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA: 1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country selection is set to Australia. The use of other country setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner. To verify that the country is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the country permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia country setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
 - b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS6=4 (Blind dial delay)
 - ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.


The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

さくいん

(記号)

キーを使ったショートカットキー 34

(A)

ACアダプタの仕様 182

Altキー 30

(B)

BackSpaceキー 31

Battery LED 14, 120

Breakキー 31

(C)

CapsLockキー 30

CRTディスプレイの接続 161

Ctrlキー 30

(D)

DC IN LED 14

Delキー 31

Disk LED 14, 17

(E)

Enterキー 31

Escキー 30

Eメール 64

(F)

Fnキー 31

Fnキーを使った特殊機能キー 32

(H)

HTML形式 70

(I)

IME ツールバー 36

Insキー 31

Internet Explorer 38

Internet Explorer 画面 38

(L)

LANケーブルの接続 166

LANコネクタ 13, 151

Libretto クイックスタート 106

(O)

Outlook Express 66

Outlook Express を起動する 66

Outlook Express を終了する

..... 103

(P)

Pauseキー 31

PCカードスロット 12, 150

PCカードの取り付け 155

PCカードの取りはずし 156

Power LED 14

PrtScキー 31

(S)

Shiftキー 30, 31

Spaceキー 30

SysRqキー 31

(T)

Tab キー	30
TFT 方式のカラー液晶ディスプレイ	15

(U)

URL	41
USB コネクタ	13, 151
USB 対応機器の取り付け	157
USB 対応機器の取りはずし	158

(W)

Win キー	30
--------------	----

(ア)

アキュポイントⅡ	10, 26
アキュポイントⅡの取り扱い	180
アドレス	41
アドレス帳	89
アドレス帳を修正する	92
アドレス帳を使って宛先を入力する	93
アドレスバー	39
アドレスを登録する	89, 90
アプリケーションキー	31
アプリケーションの削除	112
アプリケーションの追加	110
アロー状態	33

(イ)

以前に表示したホームページを 表示する	57
インターネットメール	64

(エ)

液晶ディスプレイの取り扱い	179
---------------------	-----

(オ)

オーバーレイキー	31
お気に入り	41
[お気に入り] からホームページを 表示する	44
[お気に入り] に登録する	42
[お気に入り] を整理する	45
音楽の録音レベルを調節する	20
音声の録音レベルを調節する	20
[音量] アイコン	18
音量を調節する	18

(カ)

解像度を変える	16
カタカナ／ひらがなキー	31
画面のお手入れ	179
漢字キー	30

(キ)

キーフロッピーディスクの作成	136
キーボード	10, 30
キーボードの取り扱い	179
起動したときに表示するページを 変更する	47
キャップの取り換え	180
休止状態	142
[休止状態] タブ	129

(ク)

コントロールボタン	10, 26
-----------------	--------

(サ)

- 再起動 143
- サイドライト用FL管 179

(シ)

- システムインジケータ 10, 14
- システムスピーカ 21
- 受信メールを見る 79
- 省電力モードの詳細設定 130
- 省電力ユーティリティ 126
- 省電力ユーティリティのヘルプ
..... 132
- 署名を入れる 95
- 消耗品 182

(ス)

- 数字ロック状態 33
- スクリーンセーバーパスワードの
登録 138
- スクリーンセーバーパスワードの
入力 139
- スクロールボタン 10
- スタートページ 47
- スタートページに戻る 48
- スタートページを変更する 47
- スタンバイ 140
- ステータスバー 38
- スピーカ 11

(セ)

- セキュリティロック・スロット ... 11
- 全角 36

(ソ)

- 増設メモリスロット 13, 151
- 増設メモリの取り付け 172
- 増設メモリの取りはずし 174

(タ)

- ダウンロードする 60

(ツ)

- ツールバー 38, 72
- 通風孔 10

(テ)

- ディスプレイ 10, 15
- テキスト形式 70
- [デバイス設定] タブ 129
- 電源コードの取り扱い 179
- 電源コネクタ 11
- 電源スイッチ 10
- [電源設定] タブ 126
- 電子メール 64
- 添付されたファイルを開く 100

(ト)

- 東芝 HW セットアップ 134
- 東芝ネットメニュー 59
- 特殊機能キー 35
- 時計用バッテリー 122
- ドライバをインストールする 152

(ナ)

- 内蔵マイク 10
- 内蔵モデム 22
- 内蔵モデム用地域選択
ユーティリティ 23

(二)

日本語入力システム MS-IME 36

(ネ)

ネットワークの設定 167

(ノ)

ノーマル 127

(ハ)

ハードディスクドライブ 17

ハードディスクドライブに
関する表示 17

ハイパワー 127

パスワードセキュリティ機能 ... 133

パスワードとして使用できる文字
..... 133

パソコン本体の取り扱い 178

バックアップ 181

バッテリー駆動での使用時間 124

バッテリー充電量が減少したとき
..... 121

バッテリー充電量を確認する 120

バッテリーの充電時間 123

バッテリーの充電方法 123

バッテリーパック 11, 118

バッテリーパックの取り付け
／取りはずし 125

パネルスイッチ機能 145

半角 36

半／全キー 30

(ヒ)

表示可能色数 15

(フ)

ファンクションキー 30

プラグアンドプレイ 152

フルパワー 127

(ヘ)

ヘッドホン出力端子
..... 12, 150, 160

ヘッドホンの接続 160

ヘルプ 108

変換キー 31

(ホ)

ホームページの画像を
壁紙に設定する 54

ホームページの画像を保存する ... 52

ホームページを検索する 40

ホームページを保存する 49

ポインティング装置の取り扱い
..... 180

ホットインサクション 153

ボリュームダイヤル 10, 18

(マ)

マイク入力端子 12, 150, 159

マイクロホンの接続 159

マスタ音量 19

(ミ)

ミニ RGB コネクタ
..... 12, 150, 161

(ム)

無変換キー 30

(メ)

メール	64
メールサーバ	65
メールで使える文字	95
メールにファイルを添付する	98
メールを削除する	84
メールを作成する	74
メールを受信する	78
メールを整理する	86
メールを送信する	78
メールを転送する	83
メールを分類する	87
メールを返信する	81
メニューバー	39, 72

(ロ)

ロングライフ	127
--------------	-----

(モ)

文字キー	32
文字化け	70
モジュラージャック	11, 151
持ち運ぶとき	181

(ヤ)

矢印キー	31
------------	----

(ユ)

ユーザパスワードの削除	135
ユーザパスワードの登録	134
ユーザパスワードの入力	137
ユーザパスワードを 忘れてしまった場合	137

(ヨ)

よく見るページを登録する	41
--------------------	----

